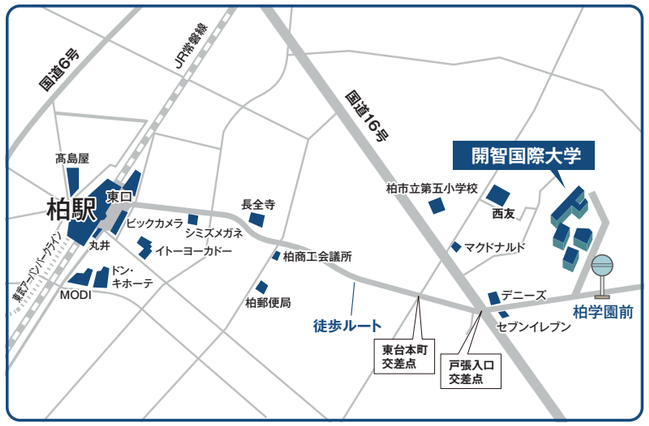
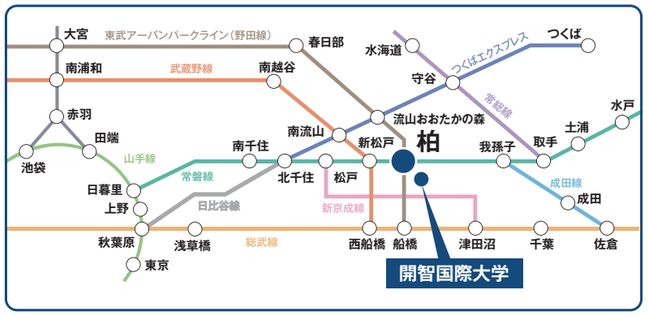
Access information

ア　ク　セ　ス　情　報



開智国際大学へのアクセス

JR常磐線・東武アーバンパークライン（野田線）「柏駅」
中央改札を出て東口から
【バス利用】
阪東バス「戸張」行き（4番乗り場）
乗車約10分、「柏学園前」下車、徒歩3分
【徒歩】約20分



柏駅までのアクセス

- **上野 → 柏**
  JR常磐線特別快速　23分
  JR常磐線快速　29分
- **土浦 → 柏**
  JR常磐線快速　32分
- **大宮 → 柏**
  東武アーバンパークライン（野田線）　57分
- **船橋 → 柏**
  東武アーバンパークライン（野田線）　29分
- **成田 → 柏**
  JR成田線・常磐線快速　51分
- **つくば → 柏（流山おおたかの森経由）**
  つくばエクスプレス・
  東武アーバンパークライン（野田線）　約30分

KAICHI INTERNATIONAL UNIVERSITY

〒277-0005 千葉県柏市柏1225-6
tel:04-7167-8655　fax:04-7163-0096
e-mail:admission@kaichi.ac.jp
http://www.kaichi.ac.jp

開智国際大学
KAICHI INTERNATIONAL UNIVERSITY

2021 - 2022

学校法人 開智学園

- 小学校：開智小学校 | 開智望小学校
- 中学校：開智中学校 | 開智望中等教育学校 | 開智未来中学校 | 開智日本橋学園中学校
- 高等学校：開智高等学校 | 開智未来高等学校 | 開智日本橋学園高等学校

教育学部
Faculty of Education

国際教養学部
Faculty of International Liberal Arts

21世紀型社会、
グローバル時代の影響は　凄まじい！

今、世界は第四次産業革命の最中にあるといわれています。膨大なさまざまな情報がデータ化されネットワークでつなげられ、解析・利用されていきます。IoT でビッグデータが活用されています。さらに、人間がすべてを与えなくてもコンピューターが自ら学習し、判断をしていくことが可能になっています。これらの技術革新が時代を大きく変えていっています。従来の常識も成功モデルも絶対ではなくなっていくことでしょう。なぜなら、こうした第四次産業革命の進展の結果、生産や販売などの経済活動も、医療や福祉などの公共サービスも、私たちの働き方や暮らし方などのライフスタイルも、大きく変化していくからです。

3 度ピューリッツアー賞を受賞したトーマス・フリードマンがインターネット社会の衝撃を世界に紹介したのが 2005 年、それからわずか 10 数年、誰がここまでの変化を予想したでしょうか。人工知能の権威レイ・カーツワイルがシンギュラリティは 2029 年に起こると予言しています。

これから大学で学ぶのは、まさにこういった社会で活躍できる力を身につけるためです。そのためにも学問の基礎を学び、その上で、まだ誰も直面したことがない問題であっても果敢に挑み、自分独自の解決策を考え、実行していく力を身につけていかなければなりません。なぜなら、それがこれからの時代に活躍できる人材の必須条件だからです。

開智国際大学の 4 年間は、あなたの人生でも特別なものになるでしょう。

つまり、21 世紀型社会を生き抜いていく大いなる自信を手に入れることができるからです。

Contents

教育学部 ｜ 教育学科 ｜ 12

初等教育 専攻 …… 16
中等教育［英語］専攻 …… 20
中等教育［国語］専攻 …… 22
教育学部のインターンシップ …… 24

国際教養学部 ｜ 国際教養学科 ｜ 26

国際教養専門科目 …… 30
グローバルビジネス科目群 …… 32
人間心理科目群 …… 34
多文化・国際社会科目群 …… 36
国際教養学部のキャリア教育 …… 38

キャンパスライフ／柏学祭／クラブ・同好会紹介 …… 40
キャンパスマップ …… 42
留学制度 …… 44
学費について …… 46

Our Mission

確かな未来を約束する、自分で創る4年間

■ 21世紀型教育で国際社会に貢献する人材を育成する

「グローバル化（Globalization）」
「ICT化（Informatization）」
「イノベーション（Innovation）」

これらによって激変した21世紀には、今までの常識や既存の概念では解決できないさまざまな問題が起きています。この時代を生きる私たち人間に求められているのは、これらの諸問題を解決するためのより高い能力です。

しかしながら、「知識を記憶し、それを正確に再現する力」や「決められた作業を素早く的確に行う力」については、人間はコンピューターやロボットにはかないません。ならば、人間のみが発揮できる能力とはなんでしょうか。

それは、「問題解決力」や「疑問・課題発見力」、「創造力」を使って、社会や文化そして数理的・技術的なツールを相互的・総合的に活用できる能力。また、「論理的・批判的思考力」や「コミュニケーション力」を駆使して多様な社会・集団の中でのより良い人間関係を創れる能力。そして、「メタ認知力」や「適応的学習力」を基に、主体的に自分で考え学び、自分の責任で行動できる能力にほかなりません。

これらのいわゆる「21世紀型能力」を身につけることこそが、「21世紀型の教育」といわれるものであり、これからの大学教育では必要不可欠なのです。

ところで、日本の高校生は知識量や質、問題処理能力など基礎的な学力は世界でトップレベルといわれています。しかしながら、課題や疑問を発見し解決する能力は、残念ながら「低い」そうです。だからこそ、開智国際大学は正解のない問題や課題に取り組み、最善な回答を求める「探究型の学び」と、世界の人々とコミュニケーションをとる道具としてのグロービッシュといわれる「国際英語の学び」を基にした学修を大切にしたいと考えます。グローバル社会で専門家として活躍できるオンリーワンの人材を育て、「世界の人々や文化を理解・尊敬し、教育あるいは国際教養分野の専門性を生かし、平和で豊かな国際社会の実現に貢献できる人材を育成する」ことに全力を注ぎます。

21世紀型社会で成功するた めに必要な教育を提供します

1. 交渉力と意思伝達力としての英語力

世界人口70億人の25%、17.5億人が英語人口で、ネイティブ・スピーカーはそのうちのわずか3.9億人、残り13.6億人は第二言語として英語を使っています。今後ますます英語人口が増えることは誰しもが分かっています。英語が世界標準言語となっている現在、英語圏以外の人が使うコミュニケーション言語としての英語は、時にグロービッシュと呼ばれます。このように英語が世界標準といわれる今、本学では、さまざまな授業を通じて英語によるコミュニケーション力の育成に力を入れています。

2. 何が問題で、いかに解決すべきか判断できる問題解決能力

目の前で起こっている変化、これから起こる変化に対して、問題の本質を見抜く力、解決策を見つけ出し、そして実行できる力は21世紀型社会で成功するための条件といえます。それは本学の4年間の学びを通して身についていくはずです。この力は社会に出てから最も必要とされるものであり、あなたの成功の原動力となるはずです。ぜひ本学の授業に参加してみてください。すべては変わるはずです。そこがすべての始まりとなるはずです。

3. 考える原点としての批判的思考力

思考する時に重要なことはクリティカルシンキングをするという姿勢です。「解がある」、だから「憶える」「探す」「習う」という受け身の姿勢から脱却しましょう。解なき世界に飛び出すのに必要な能力は、「解答は自分の中にある」。そのためにも「それでよいのか」「もっとよい方法があるのではないか」と考え続ける姿勢です。また自らの考えにも「代案はないか」と取り組む姿勢、クリティカルシンキングが身につくはずです。

4. 共創を可能にするコミュニケーション力、コラボレーション力

日本の視点だけで物事を考える。自分の経験則だけで物事を考える。周りの人間関係だけで物事を決めていく。これらの慣習的思考は限界に達しています。自分とは異なる文化、考えを受け入れ、協調して、協力して、ときにはプロジェクトを組んで物事を解決していくことがますます必要になっていきます。多様性を受け入れて、ともに創ること、つまり「共創」していくマインドが必要です。

5. ICTを駆使できる活用能力

SNSなどのインフォメーションテクノロジー（IT）はこの10年で大きく変わりました。これから登場するITはAIなど未知の分野にどんどん入っていくことでしょう。大切なことは、これらを情報ツールとして使いこなすスキルです。そして、それらを駆使して物事を解決していくことです。それは、本学での4年間の学びの中で身につけることができます。

開智国際大学、教育の4つの特長

1

国際標準の

［ 探究型教育 ］

開智国際大学の授業で取り入れている探究型教育は、世界の多くの先端的大学が行っている教育方法です。既存の知識を基に、新たな理論や考え・知識を獲得するのに最適な手法であり、これからの国際社会で必要な創造力・発信力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力等がしっかり身につきます。また、これからの教育の主流となるアクティブ・ラーニングの視点を「主体的・対話的で深い学び」と捉えると、これはまさに「探究型教育」そのものです。この探究型教育で、社会に出て役に立つ企画力、構想力、実践力を養います。

2

授業を通して強化する

［ 国際英語 ］

1年生の段階から、英語の授業は週4回、年間で延べ180時間を少人数の習熟度（英語力）別編成のクラスで学びます。また2年生からは英語のみで授業を行う科目が年間8単位程度あり、1年間で180時間前後を英語で学ぶことができます。また、開智国際大学では東南アジアや南アジアなどから来ている高学歴で英語の得意な留学生や交換留学生との英語でのコミュニケーション、海外でのインターンシップや夏休みを利用したインテンシブな英語学習などで、実践的なビジネス英語も学べます。さらに英語をICT機器で学べる環境も用意しています。

3

エキスパートを育てる

［ ICT活用授業 ］

少人数でICTを活用した授業が随所で行われています。電子黒板が壁3面に設置された教室、ノートパソコンが全員に用意された教室、英語の語学学習をeラーニングのシステムを使って学べる教室など、最新の学びの環境を用意しました。教育学部では電子黒板の有効な使い方、通信機能を使った双方向の授業、メールでの予習・復習のチェックや課題のやり取りなど、教員に必要なICT活用力を身につけます。国際教養学部では、ビジネスに必要なデータの収集や分析、コミュニケーションの道具として、プレゼンテーションの資料作成、会計諸帳簿や経営資料の作成保存に、効率よい事務処理等、国際企業人、公務員、起業家としてさまざまな職業で必要なICTスキルを身につけます。

4

海外や職場での

［ インターンシップ、キャリア教育 ］

教育学部では、1年生の段階から併設の小・中・高でインターンシップ（職場体験実習）を行い、「教育現場を知り、実践力のある教員の育成」を目指しています。また3年生からは教育実習や介護体験だけでなく、併設の小・中・高、地元の公立学校での教育サポーターなどを経験して、教員としての専門性を高めていきます。国際教養学部では、1年生は「公務員インターンシップ」を行い、地方自治体などで「公務員」の組織や仕事、役割などを学びます。2・3年生は本学が提携している多くの企業でインターンシップを行い、「企業の現場を知り、実践力のある企業人の育成」を目指します。また、海外でのインターンシップや、さらに3・4年次には就活塾などを開きます。

少人数だからこそできる探究型授業

本学の探究型教育は、知識や解き方、解答を「教える」のでなく、自ら情報を収集し、
それらの知識や情報を使い自ら考え、最善の答えを「導きだす」創造型の教育を実践しています。
探究型教育は「教員が何を教えたか」ではなく、
「学生が身につけたスキルは何か」という学生主体の学びを推進しています。

探究型授業の方法

◎ PBL 型授業
(Project-Based Learning の略で「問題解決型学習」のこと)

PBL 型授業は、学習者が疑問や課題、問題を発見し、あるいは教員がそれを提起し、解決することを目的とした学習で、学習者の主体性、自律性を尊重しながら、学習集団（チーム）の力で問題を解決していきます。

◎ PIL 型授業
(Peer Instruction Lecture の略で「双方向型授業」のこと)

PIL 型授業は、これから学ぶ知識や理論、新しい情報などを学習者に理解、獲得してもらうために教員と学習者との対話など、やり取りをしながら進める対話型授業です。

社会で通用する力の修得

- 問題・課題発見力
- 問題・課題の多角的な分析力・検証力
- 問題を解決するための方法発想力
- 問題解決に向けた自主的、自律的な行動力

■ プレゼンテーション

■ PBL 型授業

■ PIL 型授業

English as a Global Language

1 年次に 4 コマ、2 年次に 1 コマ行われる必修の英語科目の授業では、ネイティブ教員が英語で授業を行いながら、
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 技能を総合的に向上させます。
英語で行われる専門科目も 1 年次から受講することができ、それぞれの専門分野で活躍することができる
知識と英語力を同時に身につけていきます。English Lounge や e ラーニングなどを利用して、日常的に英語に
親しむとともに、海外語学研修や海外でのインターンシップなどを通して諸外国の文化に直接触れることにより、
グローバル社会への意識を高め、コミュニケーションツールとしての英語力に磨きをかけます。

グローバル言語としての英語の修得

■ 専門科目を英語で学ぶ

英語で情報を取りこみ、理解し、考え、英語で自分の意見を発信する。これを繰り返し行うことで、英語力だけでなく論理的思考力も鍛えていきます。

■ 海外語学研修

オーストラリアやカナダでの 3 週間の語学研修では、生きた英語に触れ、異文化を肌で感じることができます。

■ English Lounge

一歩足を踏み入れたら、公用語は英語。お茶を飲んだりおしゃべりをしたり、「英語を使う」場として学生が気軽に立ち寄れるラウンジです。

習熟度別クラス編成

1・2年次の必修の英語科目では、共通テストの結果に基づき、習熟度別にクラスを分けます。学生は自分のレベルに合った授業を受けることで、自分の持つ英語力を着実に向上させていきます。

class	class	class	class	class
A	B	C	D	E

e ラーニング（英語）

e ラーニング・システム ATR CALL BRIX は、日本人が英語を学習するときの聞きとりや発音の学習メカニズム研究に基づいて開発されているので、「音」に焦点が当てられており、学生はヘッドホンとマイクを装着して、リピーティングやシャドーイング、ディクテーション、発音練習、音読、長文読解、タイピングなどを行うことで、英語の 4技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に高めることができます。4級から準 1級までの「英検対策」や 460点から 790点以上を目指す「TOEIC 講座」など、12 のコースが準備されており、システム内の実力診断結果の分析に基づいて個々の学生の英語力や関心に見合ったコースを選び、いつでも自由に英語を学習することができます。また、1 回数分のワークを積み重ねる形になっているので、学生が都合のよい時間に、しかも集中力をとぎらせることなく学習することができます。このシステムは、必修科目「英語 A」の宿題として活用されているだけではなく、英語力をさらに高めたい学生が自由に利用し、着実に成果をあげています。

午後のコーチャー

心理学系の大学院を目指す学生のための、専門英語の勉強会です。英文テキストの読解を中心に、学生が主体的に運営しています。

教育学部

Faculty of Education

教育学科

21 世紀の先端的な教育学を学び、「21 世紀型教育を指導できる教員の育成」を目指した教育学部がスタートしました。

国立大学の教育学部の前教授やアメリカの 21 世紀型教育の研究者、国際バカロレアの専門家、日本の小学校・中学校・高等学校での校長経験者や教科教育の研究をしてきたベテラン教員など、多彩な教授陣が指導に当たります。

また、学園の理事には、大村智先生（ノーベル賞を受賞し、開智学園の名付け親でもあります）の実弟である大村泰三先生や、教育行政のプロフェッショナルなど、教育の専門家が多数おり、学園の総力を挙げて最高レベルの教員養成を実現する教育学部を創っていきます。

教育学部の5つの特色

1. アクティブ・ラーニング、ICTの活用法を身につける

本学の授業は、ICT機器を縦横に使い探究型のアクティブ・ラーニングを中心に展開されます。こうした授業を通して教員として必要なアクティブ・ラーニングの指導法や、ICTの活用法を身につけていきます。

2. 心理学やカウンセリングを学ぶ

充実した心理学の学びを通し、児童・生徒の心や認知・思考といった側面を踏まえた効果的な授業を展開することができます。また、カウンセリング力を伸ばし、児童・生徒のさまざまな相談や学習障害への対応力が身につきます。

3. 少人数授業やゼミで学ぶ

「生きる力や創造力」「コミュニケーション力」「問題解決力」など「21世紀型の学力」を児童・生徒が身につける探究教育の手法や、国際社会に通用する英語力を育成するなど、ほとんどの授業やゼミを少人数で行います。

4. 英語力をつけグローバルな教員になる

教育学部は1年次に週4コマ（各90分）の英語の授業を行います。2年次からは教養科目を英語で学ぶなど、英語科の教員はもちろん、国語科の教員や、小学校の教員志願者も英語を深く学び、英語が使えるグローバルな教員を育てます。

5. 学校インターンシップ、教員採用試験対策を徹底

大学1年次から探究型授業を実践する併設小・中・高等学校の学校インターンシップで実践力を育てます。4年間の教員採用試験対策講座は教員採用試験に精通した教育委員会 OB や小・中・高等学校の元校長が指導し、合格力を高めます。

教育学部の学びの構造と、21 世紀に求められる教師像

［ 教育学部の学びの構造 ］

教育学部の教育目標

① 国際的視野、教養・知性を持った教育者

使命感、責任感、情熱を持ち、基本的な学力と教養、知性、国際的な視野を身につけ、社会に貢献する強い意志と倫理観を持った教育者。

② コミュニケーション力を持った教育者

コミュニケーション能力、情報を集め、取捨選択し、活用する能力を持ち、自律的に学び、生涯にわたって自己研鑽のできる教育者。

③ 専門的知識を持った教育者

教育学全般の専門的知識、柔軟でクリティカルな思考力、創造的思考力、解答のない課題に最善の解決策を導く問題解決力を持った教育者。

④ カウンセリング・マインドを持った教育者

児童・生徒を理解でき、自己理解（自分自身、自分の国）と他者理解（他者、世界の人々や文化）ができ、カウンセリング・マインドを持った教育者。

⑤ 実践的指導力を持った教育者

「アクティブ・ラーニング」「ICTの活用」「発達障害などの児童・生徒への対応」など、新たな教育課題に対応でき、初等教育専攻の者にあっては「さまざまな教科の幅広い知識と指導力」、中等教育専攻の者にあっては「専門の教科に関する高い知識と指導力」を有した教育者。

教育学部を目指す皆さんへ

Professor's Voice

「子どもが好き」、「慕われる教員になりたい」、「まだまだ迷いがあるがチャレンジしてみたい」、教育学部を考える動機はいろいろでしょう。でも近年の学校現場では、子どもたちをめぐって多様な教育課題が山積していることも事実です。だから子どもたちに向き合うには、教育実践に関する知識やスキルといった職業的専門性だけではなく、他者を思いやる柔軟な人間性、それを支える高い教養が不可欠と、私たちは考えます。学校の各教科授業や教育諸活動に関する知識やスキルはとても大切ですが、子どもたちの心や内面に響く感性、その子の思いへの洞察力がなければ、それらは生かすことはできません。私たちはこの点を大切にしていきたいと考えています。本学教育学部は小規模ですが、その利点を生かしたアットホームな教育環境にあります。意欲ある皆さんであれば、私ども教員たちの深い専門研究を基盤にした最先端の教育学、教育実践学を学び、ともに議論していくことができます。そうしたプログラムを整え、皆さんをお迎えします。

坂井 俊樹
（学部長／教育学部教授）

学　　歴 ｜ 東京学芸大学大学院修士課程／博士（教育学）
専門分野 ｜ 社会科教育学（歴史教育）／韓国教育／教員教育
担当科目 ｜ 社会科教育研究／初等教科教育法（社会）／教育実習など
経　　歴 ｜ 東京学芸大学教授

4 年 間 の 学 び

入学してから 4 年間で、段階を踏みながら教員に必要な能力・資質・スキルを身につけ「21 世紀に求められる教員」を育成します。

この「教職課程カリキュラムマップ」は、開智国際大学が ①「国際的視野、教養・知性」②「コミュニケーション力」③「専門的知識」④「カウンセリング・マインド」⑤「実践的指導力」の 5 つの能力・資質・スキルを備えた「21 世紀に求められる教員」を、大学の授業と併設校および地元の公立の小学校、中学校、高等学校の教育現場での実践を通し、合理的かつ有機的に育成するために、構想し創りあげたものです。

教員には、その根底としてどのような「人間観」や「人生観」を有しているかが問われています。「人間」を学ぶ中で「教育」を学んでください。

柴原 宜幸（副学長／教育学部教授）

学　　歴 | 慶應義塾大学大学院博士課程／修士（教育学）
専門分野 | 発達心理学／社会心理学／教育心理学
担当科目 | 心身の発達と学習過程（小）発達心理学　など

「教育は人なり」といわれていますが、とりわけ学校における先生の役割は大きいです。先生になるための枢要な領域を探究的に学び、"教育マインド"を高めましょう。

八尾坂 修（教育学部教授）

学　　歴 | ハーバード大学教育大学院修士課程／博士（教育学・九州大学）
専門分野 | 教育行政学／学校経営学／教育制度
担当科目 | 教職論（小）／教育行政学（中高）　など
経　　歴 | 九州大学教育学部長　教授

▶ 教職課程カリキュラムマップ

（教育学部の 4年間）

求める教師像（育成する力）	1年次		2年　次		3年次		4年次	
① 国際的視野、教養・知性	教職への意欲向上期	学校教育理解期	基本的教育実践力養成期			発展的教育実践力養成期		自発的自己研鑽期
	グローバル社会を生きる・哲学・宗教学・芸術学・憲法・経済学・社会学・生物学・人間工学・地球科学等							
	情報処理概論・情報機器の操作							
② コミュニケーション力	英語ＡⅠ・Ⅱ～英語ＤⅠ・Ⅱ（週４コマ必修）		英語ＥⅠ・Ⅱ（週１コマ必修）					
	論理的思考法 宗教学	論理的表現法 プレゼンテーションＡ 経済学	プレゼンテーションＢ	英語ＦⅠ・Ⅱ～英語ＧⅠ・Ⅱ				
③ 専門的知識	教育学概論 教職論	教育行政学 教育課程論	教育方法論 教育法規		特別な教育的ニーズの理解とその支援 教育時事問題 青少年と国際教育			
・教育者としての専門性			道徳教育の理論と方法 生徒指導論（教育課程論を含む）	特別活動の理論と方法 総合的な学習の時間の指導法（教育課程論を含む）	教育相談と進路指導	国際バカロレア教育研究 青少年と情報メディア		
			ICT を活用した	授業実践研究				
・児童教育の専門科目	各教科の教育研究							
			外国語活動研究					
・英語教育の専門科目	英語文学	英語学概論	英文法 Reading・Writing Listening・Speaking					
	異文化の理解に向けて・英語圏の国々の歴史と文化							
・国語教育の専門科目	国文学史	国語学概論	日本語の表現・日本の古	典文学・日本語文章法				
		書道	日本の近代文学・	漢文学・中国の文学				
④ カウンセリング・マインド	青年心理学	心身の発達と学習過程 教育心理学 発達心理学	発達支援論 臨床心理学 障がい児・者の心理学	健康心理学 家族心理学				
⑤ 実践的指導力			初等教科教育法					
・小学校								
・中学・高等学校			教科教育法Ⅰ	教科教育法Ⅱ	教科教育法Ⅲ	教科教育法Ⅳ		
共通			教職研究Ⅰ	教職研究Ⅱ	教職研究Ⅲ	教職研究Ⅳ	教職研究Ⅴ	
					介護等体験		教育実習	教職実践演習
	インターンシップ（併設校での学校体験）				インターンシップ（地元協力公立小中高等学校・併設校での学校体験）			
	教員採用試験対策講座（憲法、教育法規、教職教養、専門教養、小論文、面接）				3年集中講座		直前集中講座	
	ゼミナールⅠ（教育について考える）		ゼミナールⅡ（教育の課題）		ゼミナールⅢ（教科を深く学ぶ）		ゼミナールⅣ（学びの集大成）	

初等教育　専攻

「子どもたちは“無限の可能性”を持っている」といわれています。

- **授業が楽しいから、学ぶことが好きになる**
- **どのように学べばよいかわかるので、自分で学ぶことができる**
- **「なぜ」を解決する仕方を学ぶと、もっと「なぜ」を勉強したくなる**

この可能性を育て生かす学びが、開智国際大学の初等教育課程で始まります。

小学校教員には、次の５つの力が求められています

① 子どもの目線で物事を見て、感じとれる教員

社会の事象、出来事などについて、「自分が子どもだったらどう考え、どう感じるだろう」こんなことを授業の中で考える場を多く設定していきます。そして子どもの目線に立った見方、感じ方ができる教員としてスタートできるようにしていきます。

② 子どもの夢を共有できる教員

「将来は英語を使って外国と日本を行き来する仕事に就きたい！」「いつも人にやさしく接することを大事にして、福祉関係の仕事をしたい！」子どもたちはさまざまな夢を持っています。その実現に向けて、自分から課題解決をして行動をする力が子どもにつくような指導方法を授業で身につけていきます。

③ 子どもと一緒に活動できる教員

子どもが信頼を寄せる先生、それは自分たちと一緒に汗を流し、いつも側にいて、一人ひとりの心に思いを寄せてくれる先生です。教科学習だけでなく、特別活動、学校行事など、あらゆる学校生活の中で、子どもと信頼関係を築くために、教員としてどのように動いたらいいのかを授業の中で考えていきます。

④ 子どもの発見、驚きを共有できる教員

「先生、ここにこんな虫がいたよ！」校庭の草花に潜んでいる虫に子どもたちは喜びます。「ほんとだ、何の虫かな？」先生が自分と共に見つけて喜ぶ姿を子どもは求めます。常に好奇心を持つことの大切さを授業で学んでいきます。

⑤ 学級内のさまざまな出来事に柔軟に対応できる教員

子どもたちの日常生活ではトラブルが頻繁におきます。生身の人間である以上、本に書いてある通りにはなかなか解決できません。学校現場の経験豊富な大学教員が、実際の子どもたちの生活や教員の効果的な指導を紹介することで、授業を通して適切な指導、柔軟な対応の方法が学べます。

Professor's Voice

知識を発見し創造できる人を育ててみたいと思いませんか。算数を学ぶこと・考えることの楽しさをともに味わってみましょう。

島田 和昭
（教育学部教授）

学　　歴｜筑波大学大学院博士課程／修士（教育学）
専門分野｜数学教育学
担当科目｜算数科教育研究Ⅰ／初等教科教育法（算数）　など
経　　歴｜千葉大学教育学部 教授

小学校における音楽教育は子どもの人生に大きな影響を及ぼします。こんな音楽授業はうけたことがないという世界共通語「音楽」を楽しく学ぶ「他教科と関連した教育方法」を身につけます。

石田 修一
（教育学部准教授）

学　　歴｜大阪芸術大学芸術学部音楽学科／学士（芸術学）
専門分野｜音楽教育
担当科目｜音楽科教育研究Ⅰ／教育実習Ⅰ（小）　など

教科の教育
［教科の学習で必要な指導の観点］

［国語］

「聞く」「読む」を通し他者の意思を的確に理解する力、「話す」「書く」を通し自分の意思をしっかりと表現する力、クリティカルシンキング能力、言語能力、創造力、構想力などのもとになる「思考する力」を、国語の授業を通して児童にどう学習させるかを学びます。

［社会］

身近なこと、家族、地域社会・産業、交通、歴史、公共機関などを知識として学ぶだけでなく、「これはどうして必要なのか」「なぜこうなっているのか」「過去、現在、未来とどうかかわっているのか」「自分の責任は」などを児童に探究的に学習させる方法を学びます。

［算数］

「どうしてそうなるのか」「どうしたらできるのか」など算数の本質（構造）を考える探究型の授業で、計算力や数・図形等の知識やスキルを身につける方法を学びます。

［理科］

「何だろう」「どうなっているのだろう」「なぜだろう」を、身のまわりのことから地球、宇宙レベルまで、調査、観察、実験などを通して、仕組みや原理や知識の獲得の仕方などを、探究型で学習させる方法を学びます。

［英語活動］

英語活動を英語で指導できるように、英語力を身につけるとともに、さまざまな活動を通して英語を使うことや、ドリル等の教材を使って児童に英語を学ぶ楽しさを知ってもらうための教育法を学びます。

［実技科目］

音楽、図工、体育、家庭などの実技科目は教員自身がどの教科も指導できるように実技を学ぶことを行います。併せて、子どもたちが主体的に活動できる授業を行えるように、教育法を学び授業実践を高めます。

［道徳］

ルール、マナー、モラル、人間としてのあり方を、ワークショップや哲学対話の手法で指導できるように、これらの指導法を学びます。

小学校の探究型授業等の例

探究型授業での教員の役割は、教えることではなく、「授業」を通し、
子どもたちが自ら学ぶことをサポート・リードしていくことです。

探究型授業の例

1. 授業のテーマ・課題・疑問

今日の授業で学ぶテーマや課題、
解決する疑問を確認する。

2. 既習知識の確認

疑問・課題解決に必要となる
既習の知識やスキルを児童から引き出す。

3. 自分で、協働で考える

既習の知識やスキルを使って疑問・課題を
解決するために、一人であるいは協働で考える。

4. 発表する

一人であるいはグループで
考えたことを発表する。

5. 皆でまとめる

教員が指導しながら、
課題・疑問の答えをまとめ、整理する。

6. 今日の学習を振り返る

授業で学んだことを確認し、知識としてスキルとして身につくように、振り返りをしっかり行う。

対話型授業の例

1. 授業のテーマ・課題・疑問の提起

今日の授業で学ぶテーマや課題、解決する疑問を教員が提示する。

2. 課題・疑問解決の知識・スキルの学習

疑問・課題解決に必要となる既習の知識やスキルを対話型で整理し、今日の課題のために必要な新しい知識やスキルを講義型で児童に説明する。

3. 課題・疑問解決のための過程

課題や疑問を解決するために、教員が質問し児童が答えるという対話を繰り返しつつ、皆で考えながら課題や疑問を解決していく。

4. まとめ

解決したことを教員が対話型でまとめ、まとめた知識やスキルを児童の身につくように教員が整理・確認する。

Professor's Voice

未来を拓く子ども達の成長・発達を支え、より良い教育について探究するプロセスを通じて、自分自身も教員として成長していく4年間になります。

寺本 妙子
（教育学部教授）

学　　歴｜慶應義塾大学大学院博士課程／博士（看護学・国立大学法人東京医科歯科大学）
専門分野｜臨床発達心理学／乳幼児精神保健
担当科目｜特別な教育的ニーズの理解とその支援［小］　など
経　　歴｜国立大学法人東京医科歯科大学 非常勤講師

子どもの成長を感じ取り、夢と希望をともに語り合う小学校教員は、やりがいのある素晴らしい職業です。私たちと一緒にその道を目指して進みましょう。

遠藤 真司
（教育学部准教授）

学　　歴｜早稲田大学法学部／学士（法学）
専門分野｜国語教育 教員養成
担当科目｜国語科教育研究（書写を含む）／初等教科教育法（国語）　など

Curriculum

教育学部教育学科／小学校教諭一種免許状取得の履修モデル

★印：卒業必修科目			1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目	英語		★英語ＡⅠ ★英語ＡⅡ ★英語ＢⅠ ★英語ＢⅡ ★英語ＣⅠ ★英語ＣⅡ ★英語ＤⅠ ★英語ＤⅡ	★英語ＥⅠ ★英語ＥⅡ 英語ＦⅠ 英語ＦⅡ	英語ＧⅠ 英語ＧⅡ	
共通科目	論理的思考／表現					
共通科目	リベラルアーツ基礎	人文科学	哲学			
共通科目	リベラルアーツ基礎	社会科学	憲法			
共通科目	リベラルアーツ基礎	自然科学		地球科学		
共通科目	リベラルアーツ基礎	外国語				
共通科目	リベラルアーツ基礎	総合	★グローバル社会を生きる			
共通科目	スポーツ／健康		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ			
共通科目	情報		★情報機器の操作Ⅰ			
教育学部専門科目	教育の基礎		教育学概論［小］ 教職論［小］ 教育行政学［小］	教育方法論［小］ 教育法規［小］	教育時事問題	
教育学部専門科目	教育を支える心理学		心身の発達と学習過程［小］	学校心理学 発達支援論		
教育学部専門科目	教育者としての専門性			道徳教育の理論と方法［小］ 特別活動の理論と方法［小］ 生徒指導論 （教育課程論を含む）［小］ 総合的な学習の時間の指導法 （教育課程論を含む）［小］ ICTを活用した授業実践研究Ａ	特別な教育的ニーズの理解とその支援［小］ 教育相談と進路指導［小］ 国際バカロレア教育研究	
教育学部専門科目	児童教育の基礎		国語科教育研究（書写を含む） 社会科教育研究 算数科教育研究 生活科教育研究 音楽科教育研究 図画工作科教育研究 体育科教育研究	理科教育研究 家庭科教育研究 英語科教育研究 教科教育研究Ａ 教科教育研究Ｂ		
教育学部専門科目	英語教育の基礎					
教育学部専門科目	国語教育の基礎					
教育学部専門科目	教職科目	小学校		初等教科教育法（国語） 初等教科教育法（社会） 初等教科教育法（算数） 初等教科教育法（音楽） 初等教科教育法（図画工作）	初等教科教育法（理科） 初等教科教育法（生活） 初等教科教育法（家庭） 初等教科教育法（体育） 初等教育教育法（英語）	教育実習Ⅰ［小］ 教育実習Ⅱ［小］ 教育実習事前事後指導［小］ 教職実践演習［小］
教育学部専門科目	教職科目	中学校・高等学校				
教育学部専門科目	教職科目	共通				
教育学部専門科目	ゼミナール		★ゼミナールⅠ	★ゼミナールⅡ	★ゼミナールⅢ	★ゼミナールⅣ

中等教育［英語］専攻

アクティブ・ラーニング型の英語の授業を英語で展開できる、魅力的な教員を育成します。

- **充実した科目群や併設校の協力のもと、確かな英語運用能力と専門知識を実践的に身につけます**
- **人と人との関係性を重視した授業や実習を 4 年間継続することで、対話力や人間力を高めます**

学びの特長

グローバル社会を生き抜くためには、互いの意見を英語で自由に交換できる能力が必要です。これからの英語教員には、このような能力を持つ人材を育てることが求められています。本学では、このような現代社会の要請に応えられる英語教員を育成するために、以下の取り組みを行っています。

① 確かな英語運用能力の構築

ネイティブ・スピーカーの教員が英語で教える習熟度別少人数クラス編成の「英語」をはじめ、多様な英語の授業を通して、文法的な確認を行いながら 4 技能 5 領域「読む、書く、話す（やりとり・発表）、聞く」に磨きをかけ、適切な英語を軽やかに使いこなせる確かな英語運用能力を構築します。

② 英語の教員に相応しい専門知識の修得

さまざまな国の「文学」や「生活と文化」、「英語学概論」や「英文法」などの授業を通して、国際感覚を養いながら、英語の背後にある歴史や文化への知識や関心を高めます。また、多様な人間の思想や想いに触れることを通して、魅力的な教員の基本となる、より豊かな人間性を育みます。

③ アクティブ・ラーニング型の教授法の修得

アクティブ・ラーニング型の英語の授業を受講することで、その有効性を自ら体験しながら、教授法を修得します。ここで得られる知識や体験は、「英語科教育法 I ～ IV」などの教職科目の中でも有効に活用され、さらに深められることになります。

④ 英語で行うインターンシップ

併設校の開智日本橋学園中学校には、大半の授業を英語で行っているコースがあります。英語専攻の学生は、このコース等でネイティブ・スピーカーの教員とチームを組みながら、英語で授業を行うインターンシップに参加することが出来ます。

⑤ 社会でも通用する総合的な人間力の育成

「確かな英語運用能力」やそれを支える「専門知識」、自ら解決を見出して行く「アクティブ・ラーニング型の授業」を修得する英語専攻の学びは、グローバル化が進む社会を逞しく生き抜き、より豊かで、より充実した人生を送るために必要となる、総合的な人間力を育みます。

Professor's Voice

軽やかに英語を駆使しながら、生徒の主体性を引き出しつつ、対話的で深い内容の授業が展開できる、先進的な英語の教員を目指しましょう。

安田 比呂志
（教育学部教授）

学　　歴｜立正大学大学院博士課程／修士（文学）
専門分野｜イギリス文学／イギリス演劇
担当科目｜イギリスの文学 A／イギリスの生活と文化　など

Exercise initiative and take responsibility for your own learning. A teacher can serve as your guide, but you must make efforts for yourself. Through being 'active learners' we become our own teachers and enjoy a lifetime of learning.

Bruce Flanagan
（教育学部講師）

学　　歴｜ニューサウスウェールズ大学大学院 修士課程／修士（通訳翻訳論）
専門分野｜応用言語学
担当科目｜英語 AI／英語コミュニケーション A など

Curriculum

教育学部教育学科／中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）取得の履修モデル

★印：卒業必修科目			1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目	英語		★英語ＡⅠ　★英語ＡⅡ ★英語ＢⅠ　★英語ＢⅡ ★英語ＣⅠ　★英語ＣⅡ ★英語ＤⅠ　★英語ＤⅡ	★英語ＥⅠ　★英語ＥⅡ 英語ＦⅠ　英語ＦⅡ 英語ＧⅠ　英語ＧⅡ		
	論理的思考／表現		プレゼンテーションA	プレゼンテーションB		
	リベラルアーツ基礎	人文科学		心理学概論		
		社会科学	憲法			
		自然科学			地球科学	
		外国語	フランス語Ⅰ　フランス語Ⅱ			
		総合	★グローバル社会を生きる			
	スポーツ／健康		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ			
	情報		★情報機器の操作Ⅰ			
教育学部専門科目	教育の基礎		教育学概論［中／高］ 教職論［中／高］ 教育行政学［中／高］	教育方法論［中／高］	教育時事問題 青少年と国際教育	
	教育を支える心理学		心身の発達と学習過程［中／高］	学校心理学 発達支援論		
	教育者としての専門性			道徳教育の理論と方法［中］ 特別活動の理論と方法［中／高］ 生徒指導論（教育課程論を含む）［中・高］ 総合的な学習の時間の指導法（教育課程論を含む）［中／高］ ICTを活用した授業実践研究 A	特別な教育的ニーズの理解とその支援［中・高］ 教育相談と進路指導［中・高］ 国際バカロレア教育研究 青少年と情報メディア	
	児童教育の基礎					
	英語教育の基礎		英語学概論 英語文学A 英語文学B 異文化の理解に向けて 英語圏の国々の歴史と文化	英文法 Reading A Reading B Writing A Writing B Listening A Listening B Speaking A Speaking B	イギリスの文学	
	国語教育の基礎					
	教職科目	小学校				
		中学校・高等学校		英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ	英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	教育実習Ⅰ［中／高］ 教育実習Ⅱ［中］ 教育実習事前事後指導［中／高］ 教職実践演習［中／高］
		共通				
	ゼミナール		★ゼミナールⅠ	★ゼミナールⅡ	★ゼミナールⅢ	★ゼミナールⅣ

中等教育［国語］専攻

優れた専門性と実践力を備えた、中学校・高等学校の国語科の教員を育成します。

- **充実した専門科目や併設校の協力のもと、理論と実践のバランスのとれた教育を行います**
- **併設校でのインターンシップ体験により、教育現場での即戦力を養成します**

学びの特長

今求められている人材は、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育むために、
課題探究型の学習、協働的学びなどがデザインできる、実践的指導力を有する教員です。
本学ではこの実践的指導力を身につけるために、以下の取り組みを行っています。

① 論理的日本語表現力を高める

1年次に、論理的日本語表現に関する科目を用意し、自分の考えを大切にしながら論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読みとる能力をグループワークを通して育成します。

② アクティブ・ラーニング型の学び

教科に関連する科目では、ディベートや議論を通して自分の意見を発信する力を養います。また、相手の主張に耳を傾け相手の論点を理解した上で、自分の考えを整理し主張する力を育成する環境を整備し、実践的指導力を高めます。

③ 教科の専門性を高める

いずれの科目も思考力・判断力・表現力が身につくように、学習指導案の分析、模擬授業、演習を交えた授業を展開します。教職に関する科目と教科に関する科目の担当者が協力して、段階を踏んで実践的指導力が養われるようにカリキュラムが編成されています。

④ インターンシップでの体験学習

大学での専門的な教育理論と実践の学習に加えて、併設校でインターンシップを体験します。今日の、生徒や教育のあり方についての適切な理解、教職に対する情熱、教科指導のための知識、技能等を得ることができ、社会の変化に柔軟に適応できる教員を養成します。

⑤ 英語力のある国語の教員

1・2年次必修のインテンシブな英語の授業により、英語もできる国語の教員を輩出できるという他学には見られない特長があります。直接的に事柄を表現する英語と、やや婉曲的に表現する日本語の言語的特徴を理解することは、国語の指導に有益であると考えます。

Professor's Voice

生徒の成長を間近に見る教員という仕事には感動があります。中学や高校の国語教員となって、「言葉の力を知り高い思考力を備えた次世代」を育てる人になってみませんか。

佐々木 さよ
（教育学部教授）

学　　歴｜早稲田大学大学院博士課程／修士（文学）
専門分野｜日本近代文学
担当科目｜日本語文章法／日本の近代文学Ａ　など

日本文学史上に残る古典文学作品が、時代を超えて読みつがれてきた理由を作者の生きざまを検討しながら考察し、古典を学ぶことの現代的意義を一緒に考えていきましょう。

服部 一枝
（教育学部教授）

学　　歴｜中央大学大学院博士課程／修士（文学）
専門分野｜平安時代和歌文学／国語教育
担当科目｜国文学史Ａ／日本の古典文学Ａ　など
経　　歴｜開智日本橋学園中学・高等学校（前日本橋女学館）校長

Curriculum

教育学部教育学科／中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）取得の履修モデル

★印：卒業必修科目			1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目	英語		★英語ＡⅠ　★英語ＡⅡ ★英語ＢⅠ　★英語ＢⅡ ★英語ＣⅠ　★英語ＣⅡ ★英語ＤⅠ　★英語ＤⅡ	★英語ＥⅠ　★英語ＥⅡ 英語ＦⅠ　英語ＦⅡ	英語ＧⅠ 英語ＧⅡ	
	論理的思考／表現		論理的思考法 論理的表現法			
	リベラルアーツ基礎	人文科学	心理学概論			
		社会科学	憲法			
		自然科学			地球科学	
		外国語	中国語Ⅰ　中国語Ⅱ			
		総合	★グローバル社会を生きる			
	スポーツ／健康		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ			
	情報		★情報機器の操作Ⅰ			
教育学部専門科目	教育の基礎		教育学概論［中／高］ 教職論［中／高］ 教育行政学［中／高］	教育方法論［中／高］	教育時事問題 青少年と国際教育	
	教育を支える心理学		心身の発達と学習過程［中／高］ 教育心理学	発達支援論		
	教育者としての専門性			道徳教育の理論と方法［中］ 特別活動の理論と方法［中／高］ 生徒指導論 （教育課程論を含む）［中／高］ 総合的な学習の時間の指導法 （教育課程論を含む）［中・高］ ICTを活用した授業実践研究Ａ	特別な教育的ニーズの理解とその支援［中・高］ 教育相談と進路指導［中・高］ 国際バカロレア教育研究 青少年と情報メディア	
	児童教育の基礎					
	英語教育の基礎					
	国語教育の基礎		国語学概論 国文学史Ａ 国文学史Ｂ 書道	日本語の表現 日本語文章法 日本語のレトリック 日本の古典文学Ａ 日本の古典文学Ｂ 日本の近代文学Ａ 日本の近代文学Ｂ 中国の文学 漢文学Ⅰ 漢文学Ⅱ		
	教職科目	小学校				
		中学校・高等学校		国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅱ	国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ	教育実習Ⅰ［中／高］ 教育実習Ⅱ［中］ 教育実習事前事後指導［中／高］ 教職実践演習［中／高］
		共通				
	ゼミナール		★ゼミナールⅠ	★ゼミナールⅡ	★ゼミナールⅢ	★ゼミナールⅣ

教育学部のインターンシップ

授業や教育実習とは別に、1年次から4年間にわたり、本学の併設校や地元の学校で
授業サポーターやチューター、さらに行事などを体験するインターンシップを実施します。
特に春休みには、1週間連続のインターンシップを実施します。このように充実した学校教育体験を積むことによって、
教育者としての意欲や心構え、また教員として必要な資質を伸ばし、実践力のある教員を育成していきます。

インターンシップ実施計画

◎ 1·2年次　実施校

開智小学校 / 開智望小学校 / 開智中学・高等学校
開智日本橋学園中学・高等学校

上記実施校の学級に、初等教育専攻は小学校に、また中等教育専攻は中学・高等学校に、それぞれ1年間を通して配属されることになります。学期期間中は大学の授業のない日に授業参観やサポーター、チューター、行事体験などを行い、春休みには1週間連続して配属学級で集中インターンシップを行います。この期間に21世紀型の授業を中心に、しっかりとした学校教育体験を積むことになります。

◎ 3·4年次　実施校

地元協力公立小中高等学校 / 開智小学校 / 開智望小学校 / 開智中学・高等学校 / 開智日本橋学園中学・高等学校

地元の協力校で、チューターや学習サポーターを中心にインターンシップを行います。併設校でのインターンシップは、希望者に対して、1・2年次の発展型の授業体験等を実施します。

[特色のあるインターンシップ]

日本の教育の優れた点は、欧米に比べて理数系の教科が充実していること、さらに基本的な知識や記述する力を伸ばす点などがあります。また何をいつ学ぶのかということが「学習指導要領」にしっかり決められていることや、教科書の内容が優れていることなどが挙げられます。

一方、国際バカロレア教育は、何を学ぶのかではなく「どう学ぶのか」という学び方を大切に、学習者が主体的に学ぶ教育に力を入れており、「思考力、発信力、コミュニケーション力を伸ばす」という点に優位性が高いといえます。

開智国際大学のインターンシップでは、併設校で行われているこの二つの教育の良さに直接触れることできます。

※開智望小学校・中等教育学校（PYP認定校）
開智日本橋学園中学・高等学校（MYP・DP認定校）

初等教育専攻（1年生）

運動会の参加（5月）	公開授業の参観（9月）	探究発表の参加（9月、12月）	集中インターンシップ（2月）
運動会の手伝いを通して、子どもたちへの励まし（声掛け）を体験します。	小学校の授業を2時間参観し、先生の意図や工夫、子どもの発言を読み取るなど、実際の授業を学びます。	子どもが自分のテーマに沿って探究した発表を聞き、内容だけでなく子どもの思考の流れを観察します。	1週間連続で学校で実習します。学級担任等に付いて授業に参加し、新しい学びについて理解、体験します。

※長期休業中は、併設校の学童保育（補助指導員）に参加しています。

中等教育専攻（1年生）

キック・オフ・ミーティング（6月）	毎月1回程度	集中インターンシップ（2月）
学校の様子を知り、インターンシップで何を学ぶか、どのようにインターンシップを進めるかを学びます。	授業や行事を体験するために適宜学校に行き、メンター（指導者）等の教員に付いて、授業に参加し、生徒との関わりを体験します。	1週間連続で学校で実習します。メンター等の教員に付いて授業に参加し、新しい学びについて理解、体験します。

学生の声

- 「何度も説明したのに、どうして分かってくれないんだろう」と思いながら繰り返し説明すると、「分かった！」と答えてくれた。この瞬間がうれしい。
- 集中インターンシップは、1週間があっという間に過ぎ…。最終日、子どもたちの姿を見ていたら涙が出そうになった。
- 授業も行事も200%の準備が必要だと学んだ。
- 現実を見せられて、甘い考えは改めないといけないと思った。
- さまざまなことを学んだインターンシップだった。絶対に教員になる。

ICT（Information & Communication Technology）

開智国際大学のICT教育は、21世紀型教育を推進するための道具としてのICT活用力を身につけ、
ICTの発展によって激変する社会に対応する力を養うことを目的としています。

教育学部の環境

大学全体のWi-Fi環境に加え、教育学部では現時点での最高レベルのICT環境を整えた教室を用意しています。教室の3面に電子黒板・プロジェクターを設置。授業では、学生全員にノートパソコンが用意され、教員のパソコンと通信しあう有機的な授業を行います。2018年度にはSurface（タブレット併用型パソコン）iPadを教室に用意するなど、最先端のICTの授業を学べる環境が整っています。

特別教室の環境

理科室、音楽室、図画工作室、家庭科室には電子黒板やプロジェクターを設置し、実験の様子や作業の仕方、映像を使った授業など、さまざまな授業形態に対応できる特別教室を用意しています。

eラーニング（英語）

24時間使用可能な本学のeラーニング・システムでは、中等教育課程の英語専攻の学生が英語力を向上させるためのソフトだけではなく、小学校で英語教育を行うための実践的な練習ができるソフトも含まれています。

ICT活用の授業例

1. 課題、疑問解決に必要な情報をインターネットなどで収集します。
2. 収集した情報を基に自分の考えをコンピューター上にまとめます。
3. 自分の考えと他の人の考えをコンピューター上で交換したり、教員とのやり取りを通してまとめます。
4. 必要に応じて、プレゼンテーション用のシートを作り発表します。

教員採用試験対策講座の特長

公立学校の第1次教員採用試験は4年次の7月に実施されます。大学入学から3年3カ月後に焦点を当て、
1年次から教員力や合格力を育成するのが、開智国際大学の教員採用試験対策講座です。

教育学部の環境

1. 「21世紀型の教員」を育成する実践的な対策講座
2. 大学1年生からじっくり、たっぷり、無理なく、確実に教員力を養成
3. 教員採用試験に精通した教育委員会OBやベテラン講師が指導
4. 大学の授業、インターンシップと連携した合格力アップの対策講座
5. 教養力、人間力、コミュニケーション力、専門性、実践力を大きく伸ばす
6. 受講料は無料。しかも教職センターの教員が一丸となって、一人ひとりを指導
7. 試験種別に学びの連続性とスパイラルな学習法を組み合わせた試験対策
8. ケーススタディ。たとえば、「学校における事故と学校の責任」など具体的な事例を基に、対処の仕方や、どのような責任があるかなどを学ぶ

4年間の流れ

1年次	憲法、教育基本法など基礎的な教育法規と教育学基礎を重点に
2年次	学習指導要領を中心に教科の専門と教科教育法などを重点に
3年次	集中講座を開始し、教職教養試験、専門教養試験対策を重点に
4年次	試験の傾向と対策を過去問や模擬問題を中心に実践指導

国際教養学部

Faculty of International Liberal Arts

国際教養学科

国際教養学部の4年間の学び

一般的に教養学部は、特に専門を絞らず、幅広い教養を身につける学部と理解する人が多いようです。広い範囲を学べるという利点の一方で、特定分野を深く学ぶことに適していないという見解もあるようです。しかし、本学の国際教養学部の学びは伝統的な教養学部に対する見方とまったく異なるものです。

先進国の大学教育では、日本のように一つの専門に絞って学部を選択して学ぶというやり方とはかなり異なっています。ダブルメジャーといって二つの専門を同じように履修することも普通に行われています。大学で何を学んだかと問う時に日本ではよく学部を聞きますが、海外では学んだ学問として例えば経済学、心理学というように話すことが普通です。

本学の国際教養学部では21世紀社会で活躍するために必要な専門領域として、「グローバルビジネス」「人間心理」「多文化・国際社会」の3つの科目群を設定しています。これらの中から選択により複数の専門を学ぶことが可能になっています。

- **卒業後に企業社会での活躍を考え、あるいは大学院で MBA の取得を目指して経営学系を中心にしながら消費行動も深く学びたいと考えて心理学を選択する**
- **国際社会に関わる進路を想定して、グローバル社会の多種多様な価値観を学ぶことを中心にしながら、経済学を学んでいく**
- **グローバル時代に必要な知識を専門的に複数の視点から学ぶ**
- **現代の必須のスキルとしての英語力、思考力、問題解決力、コミュニケーション力などを向上させる**
- **PBL アクティブ・ラーニングでは自ら考え、それをレポートやプレゼンテーションで伝える授業の中で、将来のビジネススキルに大きく資する能力を身につける**

国際教養学部が育成を目指す人物像

1. **国際人としてのアイデンティティを確立し、異文化に柔軟に対応するグローバルリテラシーを有する人材**
2. **さまざまな専門領域を横断する知識と多角的視点を有する教養豊かな人材**
3. **高い対人関係能力・コミュニケーション力を有する人材**
4. **常に社会に関心を持ち、高い職業意識と自己管理能力を有する人材**
5. **自由な発想で問題発見・問題解決能力を有し、時代の変化に適応できる人材**
6. **上記の能力を発揮して、グローバル社会に貢献できる人材**

共通科目・専門科目と3つの科目群

★印：卒業必修科目（留学生は日本語 A～E）		1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目	英語	★英語ＡⅠ ★英語ＡⅡ ★英語ＢⅠ ★英語ＢⅡ ★英語ＣⅠ ★英語ＣⅡ	★英語ＤⅠ ★英語ＤⅡ ★英語ＥⅠ ★英語ＥⅡ		
			英語ＦⅠ 英語ＦⅡ 英語ＧⅠ 英語ＧⅡ		
	論理的思考	論理的思考法／論理的表現法			
	表現	プレゼンテーション			
	リベラルアーツ基礎 人文科学	哲学／倫理学／宗教学／心理学概論／芸術学／言語学／史学概論			
	社会科学	憲法／法学／政治学／経済学／経営学／環境学／社会学			
	自然科学	生物学／人間工学／物理学／地球科学／数学			
	外国語	ドイツ語Ⅰ／ドイツ語Ⅱ／フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ／中国語Ⅱ			
		Intensive English for Foreign Students Ⅰ／Intensive English for Foreign Students Ⅱ			
	総合	グローバル社会を生きる			
		人工知能概論（AI概論）			
	キャリア	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ	キャリアデザインⅣ	
				インターンシップ	
	スポーツ・健康	スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ	健康づくり運動論		
	情報	ICTの活用Ⅰ ICTの活用Ⅱ ICTデータ処理			
			ICTメディア編集／ICT総合実践／情報倫理		
国際教養専門科目		国際教養学部の学生全員に学んでほしい学びの基礎となる科目群です			
グローバルビジネス科目群		経済学、経営学、情報など人と組織、経営について学び、実務能力をつける科目群です			
人間心理科目群		さまざまな分野の心理学やその演習、実習を行い、自己理解、他者理解を深める科目群です			
多文化・国際社会科目群		国際社会のしくみや国際関係、世界の国・地域の文化を学び［生きていくとは何か］を考える科目群です			

Professor's Voice

Welcome to the Faculty of International Liberal Arts!

本学の国際教養学部（FILA）では多様性（diversity）と好奇心（curiosity）を大切にしています。世界の人々の文化を理解し、幅広い教養・横断的な専門知識・多角的な視点と感情知能を持つ人材育成を教育方針に据え、教員のきめ細やかな指導の下、学生は今日の世界が抱えている複雑な問題を解決するための考え方・能力の修得を目指します。今日、グローバル化と情報技術の影響により、大学で一度学んだ知識は卒業後に社会で通用しない、特定分野の専門知識を獲得しているだけでは生き残れない、正解が一つではないという時代となってきました。そこで、FILA は学問分野を超えた学びを重んじ、学生の好奇心を刺激しながら、常に新しいことへチャレンジする精神を育んでいます。時代が変わってもいつでも通用する能力を身につけることを一緒に目指してみませんか。FILA では、15 カ国以上の外国人留学生および海外にバックグラウンドを持つ日本人学生が在籍し、教職員だけでなく学生同士の異文化交流もまた、多くの発見に満ちた学びの場となっています。これが、小規模大学だからこその強みだと考えます。あなたの未来が FILA から始まります。

Victor Gorshkov
（学部長／国際教養学部教授）

学　　歴 ｜ 京都大学大学院博士課程／博士（経済学）
専門分野 ｜ 経済学／国際経済関係論
担当科目 ｜ 国際教養総合演習 B／国際経済学　など

4年後、グローバル社会へはばたく強さを

多様な進路を可能にする ダブルメジャー制

大学入学時に将来の確たる進路を持っている学生もいれば、大学での学びや多様な体験を通じて徐々に固まっていく学生もいます。前者であってもその専門だけに特化していくメリットはありますが、関連する隣接分野や興味関心のある分野を大学４年間に学ぶメリットは計り知れません。先進国の多くは大学の学部時代に二つの専門を学ぶダブルメジャー制やサブの専門を持つメジャー・マイナー制が中心です。グローバル時代、大学での授業内容はもちろん、大学時代の４年間の在り方も大きく変わってきています。そして後者のようにこれから徐々に進路を固めていく学生の場合は、さらに多様な進路を可能にしておく複数の専門を持つ本学の国際教養学部の学びが有効です。

コンピテンシーを身につけていく 国際教養学部の授業

社会で活躍する人材に共通する能力があります。知識はもちろん重要ですが、使いこなせる条件があります。実社会で成功するための必須のコンピテンシーを本学部の４年間で身につけていくことが可能です。そのために本学部では PBL や PIL といったアクティブ・ラーニングの授業を必要に応じて行っています。その過程で自分自身で考えていく、解答を作っていくことを学んでいきます。その中で問題解決力という最も必要とされる能力を身につけていきます。すさまじいグローバル化の中でどの分野に進んだとしても ICT・AI 時代に真に必要な力、それには何が必要かを学んでいきます。

国際教養学部での4年間の学び…メジャー制を最大限に生かす。

1年次

共通する必須科目を学びながら2年次以降にどのような進路への道を考えて科目選択していくか考える1年間です。同時に大学での学びとは何かを本格的に体験する1年間でもあります。さらに語学力を伸ばすことが可能な時期です。

Freshman

2年次

次のステップに進むために科目選択をし、最終的にどの分野を専門としていくかを絞っていく1年間です。そのためにも多様な科目群の中から可能性の高い講座を選択し、自身への適正分野とその可能性を高めていく分野を決定していくのが2年次です。

Sophomore

3年次

メジャーとなるゼミを決定していよいよ専門性を高めていく時期です。同時に関連する他分野からも興味のある科目を選択し、学んでいく1年間です。ダブルメジャーの狙いが最も生かされていくのが3年次です。

Junior

4年次

いよいよ学部の学びの集大成です。選択したゼミが中心となり、卒業論文に取り組みます。中心になって学んだ科目群（メジャー）と同様に関心を持って学んだ科目群（マイナー）の総括をし、社会でどのように生かしていくのかを考えていくのが4年次です。

Senior

多様な進路を実現する学び方 ▸ 目指す進路に合わせて履修ができる

1 英語を使った仕事に就きたい
グローバルビジネス科目群 ＋ 英語・海外研修 ＝
グローバルビジネス論などで世界の潮流を学び、経営学やマーケティングなどビジネス系専門科目を習得して、海外展開している企業／外資系企業で活躍できるスキルを身につける。

2 公務員になって地域社会に貢献したい
グローバルビジネス科目群 ＋ 多文化・国際社会科目群 ＝
日本経済を知り地域経済のポジションを理解し、地域経済で活躍できる企業について経営学や企業行動原理を学ぶ。地域の伝統や風土を深く理解するために多面的に日本人論や日本文化を学ぶ。

3 国際社会で活躍したい
多文化・国際社会科目群 ＋ 英語・海外研修 ＝
世界の複合的な問題を解決するために、海外の文化や地域の事情、国際関係を学び、世界で通用する英語力を高めながら、国際機関やＮＧＯなど、国際社会で活躍する仕事を目指す。

4 自分でビジネスを始めたい
グローバルビジネス科目群 ＋ 人間心理 科目群 ＝
経営学とりわけ経営組織論や会計関係科目、そしてマーケティングなど起（企）業家になるために必要な使える知識を身につける。さらに市場での消費者行動心理を深く理解するために心理学に関わる学問群を学ぶ。

5 大学院（MBA）でさらに学びたい
英語・海外研修 ＋ グローバルビジネス科目群 ＝
企業ビジネスの第一線で活躍するために経営学修士（MBA）を取得する。国内外の MBA コースのある経営大学院に進学するための学問群を学ぶ。経営学全般、特に経営組織論やグローバルビジネス論やマーケティング全般を幅広く学ぶ。

6 人を支援する仕事をしたい
人間心理 科目群 ＝
公認心理師（国家資格）の受験資格取得や心理系公務員を目指す。人の心や対人関係のメカニズムを理解し、医療、福祉、教育、司法、産業といったさまざまな領域で、支援を必要としている人を心理学的に援助する方法を身につける。

国際教養専門科目

国際教養専門科目は横断的・学際的な学びを体験する「総合講座」、各国の社会制度の仕組みを理解する「社会と文化」、グローバル社会に対応できる英語と異文化コミュニケーション能力を身につける「国際コミュニケーション」および「海外研修」の科目から構成されています。

- **日本および各国の社会と文化を学び、異文化理解能力を育成する**
- **国際教養の総合講座および国際教養総合演習の科目を通して、多元的で多面的な思考力を身につけ、複雑化する国際問題について学際的なアプローチを学ぶ**
- **世界各国の大学における海外研修および短期留学を通して、英語でのコミュニケーション能力を高め、異文化に柔軟に対応するグローバルリテラシーを身につける**

		1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール		入門演習Ⅰ	入門演習Ⅱ	ゼミナールⅠ / ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ / ゼミナールⅣ
国際教養専門科目	総合講座	Human Studies 特論 Social Studies 特論	Local and Regional Studies 特論 Global Studies 特論	国際教養総合演習Ａ／国際教養総合演習Ｂ／国際教養総合演習Ｃ	
	社会と文化	イギリスの社会と文化／アメリカの社会と文化／ドイツの社会と文化／フランスの社会と文化／ロシアの社会と文化／インドの社会と文化／中国の社会文化／現代日本の社会と文化			
	国際コミュニケーション		Practical Reading in English／ Practical English Listening／The Power of Writing／ Presentation Skills／Media English／ English through Content／ Business English／ Assertion Training		
	海外研修	Field Study Trip	海外研修ＡⅠ／海外研修ＡⅡ／海外研修ＡⅢ／海外研修ＢⅠ／海外研修ＢⅡ／海外研修ＢⅢ／海外研修ＣⅠ／海外研修ＣⅡ／海外研修ＣⅢ		

Professor's Voice

異文化を知るために、本から学ぶことは沢山ありますが、実際に現地を訪れることによって、文字からはわからない体験ができます。生活している人々の話を聞いたり、社会で問題となっている現状を見たりすることによって、考えさせられることは多々あります。フィリピンではゴミはいかに処理されているのか、ゴミの仕分けに携わっている人々はいかに生活しているか、といった問題から、子供たちの教育や社会全体の働き方、経済活動が見えてきます。日本や海外の学校で学んだ英語を生かし、人々とコミュニケーションをとることによって、新たな世界が見えてくるのが、Field study Tripの醍醐味です。頭と心と身体を使い、海外に暮らす人々の生活と文化、社会について、総合的に考えます。

古賀 万由里
（国際教養学部准教授）

学　　歴｜慶應義塾大学大学院博士課程／博士（社会学）
専門分野｜文化人類学／インド文化研究
担当科目｜宗教学／宗教人類学　など

English classes are not about teachers giving speech and students quietly taking notes anymore. Language learning is not about repeating after words in textbooks with the instructor anymore. Communicative language teaching (CLT) is the core essence of our English classes. Students learn English through communications and negotiations. During the process of active discussions among peers, students are given the opportunity of enhancing English skills by actually using the language in real-life situations. Our English classes include not only materials from designated textbooks, but also real-life materials like actual English news, documentaries, television shows, just to name a few. The goal of our classes is to learn "authentic" English, which refers to the English language that is actually used in the real world. English classes are not teacher-centered anymore. Instead, students are the center, and students make their own decisions of how they will apply materials learned in class in their future.

Wai Lun Valiant So
（国際教養学部助教）

学　　歴｜コロンビア大学大学院　人文科学部／修士（TESOL）
専門分野｜英語指導法（TESOL）／音声学／第二言語取得（SLA）
担当科目｜英語 A-E

Field Study Trip

国際教養学部では 1年次に 2週間の海外研修が予定されています。

- 研修先：フィリピン
- 目　標：現地社会の人々と英語でコミュニケーションをとることにより、知見を広める。
  社会問題の生じている現場での人々との交流を通して、問題の背景や解決法を探る。
- 日　程：8 月～ 9 月頃（2 週間）
- 1 日の研修内容（参考）：1 コマ 50 分／マンツーマン英語レッスン 4 コマ／グループ英語レッスン 3 コマ／ SDGs ツアー（土日）

■ SDGs とは

（エスディージーズ：Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）とは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

Interview

五十嵐 愛美［2年］

学生インタビュー

▶ 授業について

1日に7つのレッスンに参加しました。マンツーマンレッスンでは、配布されたテキストで主にスピーキングに重点を置いて勉強をしました。SDGs Studyのレッスンでは、SDGsの問題をフィリピンに当てはめながら、その問題を解決するにはどうすればよいか、何ができるかをマンツーマンで先生と意見交換しました。グループレッスンではゲームを通してボキャブラリーの強化や、アクセントの強化をしたりテキストを用いて文法問題を解いたりしました。

▶ フィールドワークについて

SDGsツアーでは、現地のボランティア団体と、ゴミ山といわれるダンプサイトに行き、拾ったゴミを売って生計を立てている家庭の方からお話を聞きました。「大学進学を弟や妹のために諦めた」「ダンプサイトでの暮らしに不満はない」という言葉が印象に残っています。最後に現地のスタッフの方とペアを組み SDGsで基礎となる要素は何かを考えてみんなの前でプレゼンテーションをしました。ほとんど自分1人で、英語を用いて説明をしなければならず、恥ずかしさや怖さでいっぱいでした。緊張と闘いながらのプレゼンでしたが、その分終わった時の達成感は素晴らしかったです。

▶ 研修を通して身についた力

挑戦力がつきました。初めは、思ったようにクラスメイトや先生と、苦手な英語でのコミュニケーションをとれずに歯がゆい思いをしました。

しかし、ほとんど英語しか使うことが出来ない、英語漬けの毎日を送っていく中で、「とにかく話そう。間違っても自分の意思や考え、気持ちを伝えよう」と失敗を恐れずに立ち向かうようになりました。そういった姿勢をとるようになると、驚くことに会話が続くようになります。相手も私も、楽しく会話をしていると感じることができ、友達もできて話すことが怖くなくなりました。自分から現地の人に話しかけることもできるようになり、自分の変化に私自身が一番驚いています。

▶ 研修を終えて

水道設備などが、日本と比べると整っていなくて、初めは困惑しましたが、数日で気にならなくなりました。それよりも、フィリピンがとても素敵な国であることが私にとって重要であり感動しました。特に人柄が素晴らしかったです。空港や街中、お店の中でも話しかけてくれて、おすすめの料理、観光地、有名なお土産や、来日したときのエピソードを教えてくれました。にこにこと日本の魅力を語ってくれたあの笑顔を忘れません。

グローバルビジネス科目群

- **企業経営における経営資源(Management Resources;人財、財務、情報など)について学び、活用の仕方を理解する**
- **組織における自分の役割について学び、実務能力を身につける**
- **国家間の違いを理解し、グローバル市場における経営について学ぶ**

Professor's Voice

大学で初めて学ぶ経営学の基礎を身につけ、企業経営や組織運営のしくみを理解します。その上で、企業事例(ケース・スタディ)を通して過去から現在までの企業を取り巻く環境の変化に、日本企業がどのように対応してきたのかを知り、グローバル市場における今後の経営課題を予測していきます。グローバル経営の流れを理解するためには、日本の文化や歴史を踏まえた上で、マクロ的には比較文化に関する科目群から多様な国々の文化を学ぶ必要があります。また、ビジネスシーンで通用する外国語の科目を履修することでマスターすることもできます。ミクロ的には、組織で働く多様な人々の心理や行動に関する理解を人間心理の科目群から学ぶことで、グローバルな職場に貢献できる人材が育つと考えています。

宮入 小夜子
(国際教養学部教授)

学　　歴｜日本大学大学院博士課程／博士(総合社会文化)
専門分野｜組織行動／組織変革／組織風土改革
担当科目｜経営学／産業組織心理学　など

開智国際大学グローバルビジネス科目群の専任教員は、全員が経済・経営の研究だけではなくビジネス従事経験を有し、海外の学位取得か海外ビジネスに関わっています。ビジネスでは、経営・経済環境がめまぐるしく変化する状況を見極め、限りある資源を活用しながら、商品開発をしたり設備投資をして、顧客に商品を届けて収益を上げていきます。人生でも視野を広げ、スキルを向上させたり、資格を習得したりしながら将来の目標を達成していく事と似ています。
国際教養学部では「経営学と共に心理学も身につけ、色彩や価格決定など商品開発に生かす」「博物館や美術館のスタッフを目指し、文化と同時に組織管理論やマーケティングを学ぶ」「外国語や外国文化と共に英語で国際経済学や国際金融論を学び、グローバルに活躍する」といったことも可能です。

今村 健太郎
(国際教養学部准教授)

学　　歴｜日本大学大学院修士課程／修士(経営学)
専門分野｜経営戦略／国際経営／人事労務管理
担当科目｜経営管理論／グローバル・ビジネス論　など

Curriculum
カリキュラム

		1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール		入門演習Ⅰ	入門演習Ⅱ	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ/ゼミナールⅣ
国際教養専門科目	総合講座	Human Studies 特論 Social Studies 特論	Local and Regional Studies 特論 Global Studies 特論	国際教養総合演習A／国際教養総合演習B／国際教養総合演習C	
	社会と文化	イギリスの社会と文化／アメリカの社会と文化／ドイツの社会と文化／フランスの社会と文化／ロシアの社会と文化／インドの社会と文化／中国の社会文化／現代日本の社会と文化			
	国際コミュニケーション		Practical Reading in English／Practical English Listening／The Power of Writing／Presentation Skills／Media English／English through Content／Business English／Assertion Training		
	海外研修	Field Study Trip	海外研修AⅠ／海外研修AⅡ／海外研修AⅢ／海外研修BⅠ／海外研修BⅡ／海外研修BⅢ／海外研修CⅠ／海外研修CⅡ／海外研修CⅢ		
グローバルビジネス	経済	経済学Ⅰ／経済学Ⅱ			
			日本経済論／Current Issues in the Japanese Economy／経済学史／経済政策論／地域経済／金融論／国際経済学／Current Issues in the World Economy／ヨーロッパ経済とビジネス／アジア経済とビジネス		
				国際金融論	
	経営	マーケティング論			
			経営学概論／経営管理論／経営戦略論／経営組織論／人的資源管理論／地域ビジネス演習／貿易実務／行政法／グローバル・マーケティング論／グローバル・ビジネス論／Global Business Studies		
				企業の社会的責任／アントルプレナー論／コーポレート・ファイナンス／ビジネスと法	
	ビジネス情報	簿記入門／会計学／情報管理論			
			簿記実務特講／経営情報論／情報システム論／ビジネス統計／ネットワーク論／ITビジネス論／情報イノベーション／マルチメディア演習／ビジネス・プレゼンテーション		
人間心理	心理基礎	心理学研究法A／心理学研究法B／社会・集団・家族心理学A／教育・学校心理学A／発達心理学／青年心理学			
			心理学統計法／心理学実験Ⅰ／知覚・認知心理学A／知覚・認知心理学B／感情・人格心理学／学習・言語心理学／神経・生理心理学		
				心理学実験Ⅱ	
	心理応用		臨床心理学概論／健康・医療心理学／教育・学校心理学B／福祉心理学／司法・犯罪心理学／産業・組織心理学／人体の構造と機能及び疾病／障害者・障害児心理学／社会・集団・家族心理学B／コミュニティ心理学／発達支援論		
	心理臨床	公認心理師の職責			
			関係行政論／心理的アセスメントA／心理的アセスメントB／精神疾患とその治療／心理学的支援法／認知行動療法／精神分析学／心理演習A／心理演習B		
				心理実習	
多文化・国際社会	文化理解	フィールドワーク／社会調査法／文化人類学／地域社会学／比較芸術論／異文化コミュニケーション			
			宗教人類学／死生学／ジェンダー研究／エスニシティ研究／メディア文化論／大衆文化論／身体文化論／表象文化論／		
	地域研究	日本のサブ・カルチャー／Japanese Society and Culture／Japanese Politics／日本文学史			
			比較文明論／ヨーロッパ近現代史／欧米地域研究／アジア近現代史／東南アジア地域研究／中東・イスラーム研究／アフリカ地域研究		
	国際社会		グローバル・ヒストリー（近現代世界史）／国際政治学／International Relations／国際関係論／国際法／国際協力論／国際開発論／International Migration／国際機構論／国際社会論／環境社会学／Global Citizenship／World Heritage		

人間心理科目群

- 心のはたらきや、行動の法則について学ぶ
- 心の健康について学び、多彩な支援方法を学ぶ
- 心を科学的に研究する方法を学び、思考力や問題解決力を身につける

Professor's Voice

臨床心理学は、心の健康の回復や増進を目的とした実践的学問です。従来、カウンセラーとして働くための知識やスキル、そして共感的に人に寄り添う姿勢、いわゆるカウンセリング・マインドを身につけることを目的としてきました。しかし、21世紀は「心の時代」といわれるほど、心の在り方が問われており、このカウンセリング・マインドは、今や、自分とは異なる価値観を持った人たちとの共生には欠かせないものとなっています。国家資格「公認心理師」や心理職を目指す人にとってはもちろんのこと、社会や世界とのつながりを意識し、企業が、地域社会が、日本が成長していくための多様性を理解したい人や、生き方、社会での働き方、人の愛し方、異文化の受け入れ方を考えたい人にとっても、人と共に生きるための臨床心理学は、新たな視点を得られる学問かもしれません。

鳥越 淳一
（国際教養学部教授）

学　　歴｜ポストン精神分析大学院博士課程／博士（精神分析学）
専門分野｜精神分析学／臨床心理学
担当科目｜精神分析学／公認心理師の職責　など

実験心理学は、ヒトを含む生物の行動や認知（知覚・注意・記憶・判断・思考など）に関する法則性やメカニズムの科学的解明を目指す学問です。その基礎を深く学んだ学生は、複雑な現実を読み解くための科学的な思考法や実験・観察・調査などの科学的な問題解決の方法を身につけることによって、問題発見力や論理的思考力、身の回りにあるさまざまな情報を適切に分析する知識と技術を大きく高めることができるでしょう。そうした知識や技術は、心理学専門職だけでなく、マーケティングリサーチや商品開発、組織や人材の管理に関する業務など、さまざまな職域で生かすことのできる汎用的な社会人基礎力（ジェネリックスキル）といえます。本学で身につけた生涯の財産となるそれらの力を、大学での学びのみならず、日常生活や卒業後の仕事にも生かしてほしいと考えています。

菊島 正浩
（国際教養学部准教授）

学　　歴｜学習院大学大学院博士課程／修士（心理学）
専門分野｜実験心理学／認知科学／教育工学
担当科目｜論理的思考法／論理的表現法　など

Curriculum
カリキュラム

		1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール		入門演習Ⅰ	入門演習Ⅱ	ゼミナールⅠ／ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ／ゼミナールⅣ
国際教養専門科目	総合講座	Human Studies 特論 Social Studies 特論	Local and Regional Studies 特論 Global Studies 特論	国際教養総合演習Ａ／国際教養総合演習Ｂ／国際教養総合演習Ｃ	
	社会と文化	イギリスの社会と文化／アメリカの社会と文化／ドイツの社会と文化／フランスの社会と文化／ロシアの社会と文化／インドの社会と文化／中国の社会文化／現代日本の社会と文化			
	国際コミュニケーション		Practical Reading in English／Practical English Listening／The Power of Writing／Presentation Skills／Media English／English through Content／Business English／Assertion Training		
	海外研修	Field Study Trip	海外研修ＡⅠ／海外研修ＡⅡ／海外研修ＡⅢ／海外研修ＢⅠ／海外研修ＢⅡ／海外研修ＢⅢ／海外研修ＣⅠ／海外研修ＣⅡ／海外研修ＣⅢ		
グローバルビジネス	経済	経済学Ⅰ／経済学Ⅱ			
			日本経済論／Current Issues in the Japanese Economy／経済学史／経済政策論／地域経済／金融論／国際経済学／Current Issues in the World Economy／ヨーロッパ経済とビジネス／アジア経済とビジネス		
				国際金融論	
	経営	マーケティング論			
			経営学概論／経営管理論／経営戦略論／経営組織論／人的資源管理論／地域ビジネス演習／貿易実務／行政法／グローバル・マーケティング論／グローバル・ビジネス論／Global Business Studies		
				企業の社会的責任／アントルプレナー論／コーポレート・ファイナンス／ビジネスと法	
	ビジネス情報	簿記入門／会計学／情報管理論			
			簿記実務特講／経営情報論／情報システム論／ビジネス統計／ネットワーク論／ITビジネス論／情報イノベーション／マルチメディア演習／ビジネス・プレゼンテーション		
人間心理	心理基礎	心理学研究法Ａ／心理学研究法Ｂ／社会・集団・家族心理学Ａ／教育・学校心理学Ａ／発達心理学／青年心理学			
			心理学統計法／心理学実験Ⅰ／知覚・認知心理学Ａ／知覚・認知心理学Ｂ／感情・人格心理学／学習・言語心理学／神経・生理心理学		
				心理学実験Ⅱ	
	心理応用		臨床心理学概論／健康・医療心理学／教育・学校心理学Ｂ／福祉心理学／司法・犯罪心理学／産業・組織心理学／人体の構造と機能及び疾病／障害者・障害児心理学／社会・集団・家族心理学Ｂ／コミュニティ心理学／発達支援論		
	心理臨床	公認心理師の職責			
			関係行政論／心理的アセスメントＡ／心理的アセスメントＢ／精神疾患とその治療／心理学的支援法／認知行動療法／精神分析学／心理演習Ａ／心理演習Ｂ		
				心理実習	
多文化・国際社会	文化理解	フィールドワーク／社会調査法／文化人類学／地域社会学／比較芸術論／異文化コミュニケーション			
			宗教人類学／死生学／ジェンダー研究／エスニシティ研究／メディア文化論／大衆文化論／身体文化論／表象文化論／		
	地域研究	日本のサブ・カルチャー／Japanese Society and Culture／Japanese Politics／日本文学史			
			比較文明論／ヨーロッパ近現代史／欧米地域研究／アジア近現代史／東南アジア地域研究／中東・イスラーム研究／アフリカ地域研究		
	国際社会		グローバル・ヒストリー（近現代世界史）／国際政治学／International Relations／国際関係論／国際法／国際協力論／国際開発論／International Migration／国際機構論／国際社会論／環境社会学／Global Citizenship／World Heritage		

多文化・国際社会科目群

- 国際社会のしくみや国際関係について学び、国際人としての素養を身につける
- 世界のさまざまな国・地域の文化を学び比較することによって、異文化を理解する
- さまざまな社会的分野との関連で文化を捉えることにより、「生きていくとは何か」を考える

Professor's Voice

国際関係論は、広範な分野を扱う学問です。国家と国家との関係を中心として、外交、安全保障、戦争と平和などを学びます。他方で、国際連合、ヨーロッパ連合(EU)、非政府組織(NGO)や多国籍企業などの動向も分析します。国際関係論を学ぶことにより、民族問題、環境問題、貧困と格差、グローバリゼーションなどの事例について、あるいは、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなど、地域の状況について、それぞれ探究することができます。今日の世界は世界大戦や冷戦という過去の出来事の影響も受けています。国際関係論ではそうした歴史についても学びます。「多文化・国際社会科目群」では、基礎力を重視して、応用力を追求します。それによって、学問としての基盤を構築して、幅広い教養を身につけることができます。

清水 聡
(国際教養学部准教授)

学　　歴｜明治大学大学院博士後期課程／博士(政治学)
専門分野｜国際政治学／ヨーロッパ研究
担当科目｜国際関係論／政治学 など

「文化」は人間生活を支え、豊かな社会を築くには不可欠なものです。他方で、曖昧かつ不確かで、とらえどころのないものだとも言えるでしょう。たとえば、日本食という身近な「日本」文化をあげてみても、日本と海外とでは、料理に使われている素材や味付けは大きく異なり、同一のものだとは思えません。また、現代文化を牽引しているマンガも海外で極めて人気が高いですが、右から左に「コマ」を読むスタイルが常識化しているのは、日本だけです。こうした国際的な視点から捉えることで、「食」であれ「マンガ」であれ、文化が多様な側面を持っていることに気づかされます。みなさんには、講義やゼミ等を通じて、この文化の多様性にふれ、探究すべき課題を見つけ出し、それに挑戦してもらうことを期待しています。

北浦 寛之
(国際教養学部講師)

学　　歴｜京都大学大学院人間・環境学研究科／博士(人間・環境学)
専門分野｜映画学／メディア研究／アニメ(サブ・カルチャー)研究
担当科目｜日本のサブ・カルチャー／比較芸術論 など

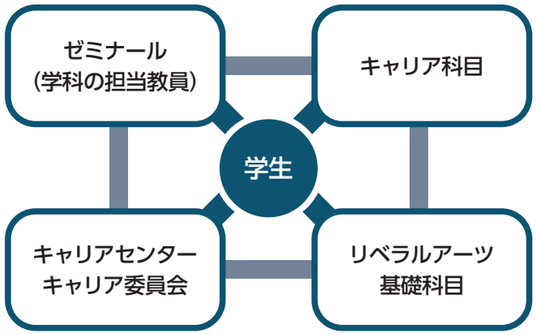
Curriculum
カリキュラム

		1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール		入門演習Ⅰ	入門演習Ⅱ	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ/ゼミナールⅣ
国際教養専門科目	総合講座	Human Studies 特論 Social Studies 特論	Local and Regional Studies 特論 Global Studies 特論	国際教養総合演習A／国際教養総合演習B／国際教養総合演習C	
	社会と文化	イギリスの社会と文化／アメリカの社会と文化／ドイツの社会と文化／フランスの社会と文化／ロシアの社会と文化／インドの社会と文化／中国の社会文化／現代日本の社会と文化			
	国際コミュニケーション		Practical Reading in English／Practical English Listening／The Power of Writing／Presentation Skills／Media English／English through Content／Business English／Assertion Training		
	海外研修	Field Study Trip	海外研修AⅠ／海外研修AⅡ／海外研修AⅢ／海外研修BⅠ／海外研修BⅡ／海外研修BⅢ／海外研修CⅠ／海外研修CⅡ／海外研修CⅢ		
グローバルビジネス	経済	経済学Ⅰ／経済学Ⅱ			
			日本経済論／Current Issues in the Japanese Economy／経済学史／経済政策論／地域経済／金融論／国際経済学／Current Issues in the World Economy／ヨーロッパ経済とビジネス／アジア経済とビジネス		
				国際金融論	
	経営	マーケティング論			
			経営学概論／経営管理論／経営戦略論／経営組織論／人的資源管理論／地域ビジネス演習／貿易実務／行政法／グローバル・マーケティング論／グローバル・ビジネス論／Global Business Studies		
				企業の社会的責任／アントルプレナー論／コーポレート・ファイナンス／ビジネスと法	
	ビジネス情報	簿記入門／会計学／情報管理論			
			簿記実務特講／経営情報論／情報システム論／ビジネス統計／ネットワーク論／ITビジネス論／情報イノベーション／マルチメディア演習／ビジネス・プレゼンテーション		
人間心理	心理基礎	心理学研究法A／心理学研究法B／社会・集団・家族心理学A／教育・学校心理学A／発達心理学／青年心理学			
			心理学統計法／心理学実験Ⅰ／知覚・認知心理学A／知覚・認知心理学B／感情・人格心理学／学習・言語心理学／神経・生理心理学		
				心理学実験Ⅱ	
	心理応用		臨床心理学概論／健康・医療心理学／教育・学校心理学B／福祉心理学／司法・犯罪心理学／産業・組織心理学／人体の構造と機能及び疾病／障害者・障害児心理学／社会・集団・家族心理学B／コミュニティ心理学／発達支援論		
	心理臨床	公認心理師の職責			
			関係行政論／心理的アセスメントA／心理的アセスメントB／精神疾患とその治療／心理学的支援法／認知行動療法／精神分析学／心理演習A／心理演習B		
				心理実習	
多文化・国際社会	文化理解	フィールドワーク／社会調査法／文化人類学／地域社会学／比較芸術論／異文化コミュニケーション			
			宗教人類学／死生学／ジェンダー研究／エスニシティ研究／メディア文化論／大衆文化論／身体文化論／表象文化論／		
	地域研究	日本のサブ・カルチャー／Japanese Society and Culture／Japanese Politics／日本文学史			
			比較文明論／ヨーロッパ近現代史／欧米地域研究／アジア近現代史／東南アジア地域研究／中東・イスラーム研究／アフリカ地域研究		
	国際社会		グローバル・ヒストリー（近現代世界史）／国際政治学／International Relations／国際関係論／国際法／国際協力論／国際開発論／International Migration／国際機構論／国際社会論／環境社会学／Global Citizenship／World Heritage		

国際教養学部のキャリア教育

学生が自立し、主体的な進路選択ができるように
1年次から一人ひとりをサポートします。

本学では、1年次からのキャリア科目とゼミナールを通じて、自分と向き合い、将来の進路を考え、大学で学ぶ意味を自覚して目標を設定していく、アクティブ・ラーニングを行っています。小規模大学の強みを活かし、一人ひとりの適性や志望に沿って、1年次から卒業まで、徹底的にマンツーマンで個別指導を行うのが特長です。学生が主体的に動いて職業観と就労観を養い、社会人として求められる能力を高めるためのユニークで多様なプログラムを展開しています。



■ キャリア相談

就職活動を始動するにあたって、専門のキャリアカウンセラーによる個別面談を実施します。面談を通して、これまでの自分自身を振り返り、自己分析を行います。今後の進路の方向性はもちろん、悩み事や不安についても相談できると大変好評です。

■ 学内企業面接会

企業の採用ご担当者にお越しいただき、大学内で説明会や面接会を実施します。キャリア相談、業界研究会を通して得た個々の学生の興味や適性を基に専門職員がマッチングを行います。

■ 就活塾

就職活動中の学生は、専門家によるエントリーシートや履歴書の添削、面接対策などの個別キャリア支援を何度でも受けることができます。学生が納得し、安心して面接に臨めるよう、二人三脚でサポートします。

■ 業界研究会

経験豊富な職員との個別面談を通して、業界や企業に関する知識を深めていきます。学生一人ひとりがその適性や強みを生かせる業界や企業の紹介を行います。

STEP 1 試す　1年次 ｜ 自分を知り社会を知る
STEP 2 広げる　2年次 ｜ 社会で求められる力を養う
STEP 3 深める　3年次 ｜ 就職活動の準備
STEP 4 決める　4年次 ｜ 就職活動の実践

■ 授業（キャリアデザイン基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）／■ ゼミナール

インターンシップ（就業体験）

■ 公務員インターンシップ

1年次では、自分の将来の進路を模索するために、公務員のインターンシップを行います。将来の選択肢として公務員の仕事について知ることで、社会や地域の現状や課題を認識するきっかけになると同時に、公務員を志す学生には早めの準備を促します。

■ チャレンジ　インターンシップ

2年次では、学生自身による企画型のインターンシップを行います。地域や首都圏にある協力企業や官公庁からインターンシップ先を選び、幅広い就業体験を積むことで、自身が働く目的や意味をより具体的にイメージできるようにしていきます。

■ 国内外の選択型インターンシップ

自己分析と業界研究を踏まえ、自身の興味や適性に合ったより実践的なインターンシップを経験します。進路に直結するインターンシップを経験することで具体的な進路イメージを確立し、将来の職業選択に生かします。

キャリア教育プログラム

■ キャリアをデザインし実現に向けて計画する

なぜ大学で学ぶのか、仕事とは何であるか、いかにして自分の幸せを実現していくかなど、今後学生が直面していく事柄について考えます。答えは目の前にある訳ではありません。これから長く続くキャリアのなかで、皆さんが自分の事として考え続けていくことで見つけることができるものなのです。一人ひとりが自らのキャリアや生き方について考える際の手法や学びのコツを学んでいきます。

■ 社会との関わりの中で自分らしく生きる仕事を見つける

なりたい自分像をもとに、それを実現する生き方や職業を探ります。自己の資質や力を分析する際には、自分側の価値観や能力の分析のみに偏ることなく、社会から要請されているニーズや市場環境を深く研究することで、社会人に必要な基礎力を学び、自らの「職業観」を養います。自分らしく生きることのできる「仕事」を実際の「職」として探しだすための方法や学びのコツを学んでいきます。

■ 自己分析を通した成長課題の設定

キャリアカウンセラーとの個別面談を通して、自己分析を深め、自身の価値観や適性を知り、将来の進路を描いていきます。民間企業や公務員への就職、大学院への進学など、個々の目標に向かって課題を設定し、目標達成に向けて徹底的な個別指導で取り組みます。公務員希望者は公務員試験チャレンジ制度を利用し、勉強をスタートします。

公務員試験対策講座・企業試験対策講座

学生の声

滝本　彩
就職先：柏市役所
2020年卒業

3年生の時に柏市役所でのインターンシップを経験し、「絶対にここで働きたい」という気持ちが明確になりました。ダブルスクールでの試験対策のほか、大学のキャリア相談も活用。特にプレゼンテーションは何度も練習を見ていただき、客観的な視点でアドバイスを貰えたことが合格に繋がりました。

猪瀬 舞衣
就職先：明治安田生命保険相互会社
2020年卒業

やりたいことや志望業界などの方向性が決まっていなかったので、はじめはエントリーシートを埋めることができず大変でした。開智国際大学では、授業やキャリア支援プログラムを通して自分のやりたいことを考えることができ、私も「人と関わる仕事がしたい」という目標を見つけることができました。

Campus Life

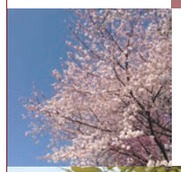
〈 大学の一年 〉

4 April

- 入学式
- ガイダンスウィーク
- 前期授業開始
- 履修登録期間

5 May

- 学校インターンシップ開始
- 教員採用試験対策講座開始



6 June

7 July

- 前期授業終了
- 前期定期試験

8 August

- 1dayインターンシップ
- 夏期休業
- 前期成績通知
- Field Study Trip

9 September

- 1dayインターンシップ
- 後期授業開始
- 履修確認

10 October

- 柏学祭

11 November

12 December

- 冬期休業

1 January

- 後期授業終了
- 後期定期試験

2 February

- 集中・学校インターンシップ

3 March

- 後期成績通知
- 卒業式

Hakugaku festival

〈 柏学祭 〉

毎年10月下旬に、学生実行委員会と多くの参加団体によって開催される学園祭です。展示・ゼミ発表、パフォーマンスや模擬店など、さまざまな企画が例年出展されています。また、柏学祭と同時開催される「書評合戦ビブリオバトル」や「English Speech Contest」は、エントリーした学生によるプレゼンテーションが見ものです。学生や教職員はもちろん、家族や地域の方々も来場される一大イベントです。

Club

〈 クラブ紹介 〉

2016年4月に、吹奏楽部が創設されました。顧問は、吹奏楽で全国的に有名なイチカシ（柏市立柏高等学校・吹奏楽部）の指導も続けている本学教育学部の石田修一先生です。選曲や演奏スタイル、練習方法など、メンバーで自由に決められる点が、大学の部活動ならでは。学外での演奏活動も、楽しく行っています。このほか、文化系クラブとしては、軽音楽部、演劇部、アーティスティック部などが、また体育系クラブとしては硬式野球部、バスケットボール部、フットサル同好会などがあります。また、ブルース・フラナガン先生や学生が中心となって剣道・空手部がスタート。新しいクラブや同好会を学生たちが主体的に創っています。

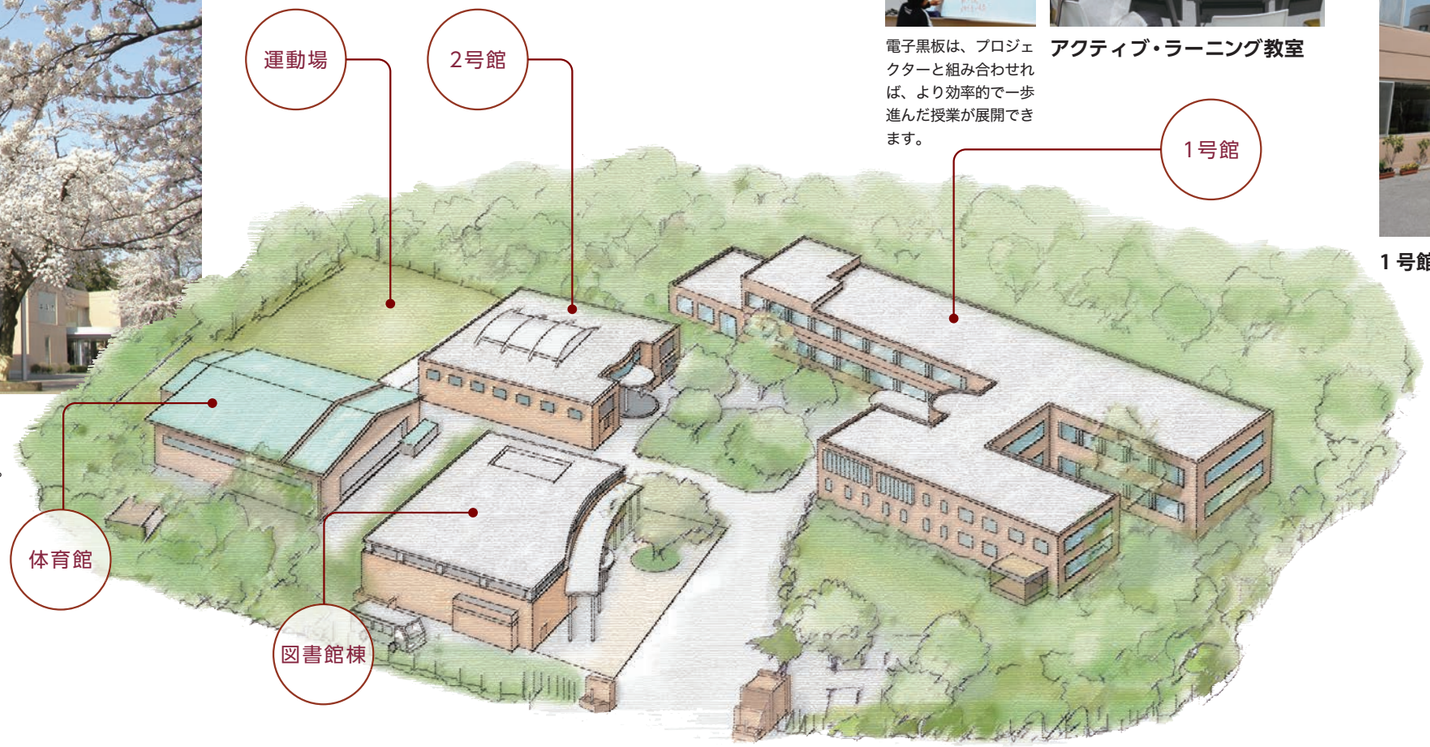
Campus Map

開智国際大学のキャンパスは、季節を感じる自然が多い、ちょっと贅沢な空間。
春には桜が咲き誇り、夏はまぶしいほどの緑、秋には鮮やかな紅葉がキャンパスいっぱいに広がります。
ここで過ごす4年の間に、きっと自分のお気に入りの場所を見つけられるでしょう。

図書館棟外観

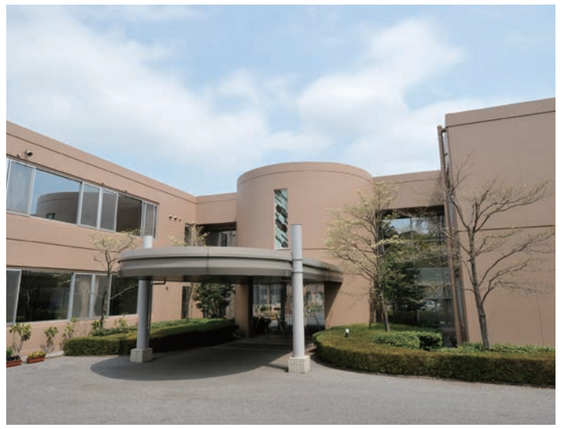
1 階には図書館、2 階にはこもれびホールがあります。
学生はもちろん、地域の方々にもご利用いただいています。

図書館



電子黒板は、プロジェクターと組み合わせれば、より効率的で一歩進んだ授業が展開できます。

アクティブ・ラーニング教室



1 号館外観　大教室や学生食堂のほか、事務局、教職センター、English Lounge など、さまざまな施設が 1 号館に集まっています。

2号館外観　センターホール、保健室や学生相談室があります。

体育館

こもれびホール

コンピュータールーム

運動場

トレーニングルーム

310教室（センターホール）

体育館や運動場など、運動スペースも充実しています。

学生相談室

図画工作実習教室

理科実験教室

三面ホワイトボード教室

三面に、独立したプロジェクターの映写ができます。

家庭科実習教室

音楽実習教室

Partner Universities

国内外の大学と交流協定を締結しています。
多様な価値観に触れ、見聞を広めるためにもこの制度を大いに活用してください。

海外・国内留学制度

※他大学の資格取得については別途お問い合わせください。

１年間もしくは半年間、提携している海外・国内の大学への留学が可能です。
留学中に取得した単位は、本学の卒業単位に認定されますので、留学をしても４年間で卒業することが可能です。
※詳しくはホームページをご覧ください。

海外大学（機関名）	国
Soochow University（蘇州大学）	中国
Shanghai Normal University College of Education（上海師範大学教育学院）	中国
Shandong University of Science and Technology（山東科技大学）	中国
Petra Christian University （ペトラクリスチャン大学）	インドネシア
State University of Surabaya （スラバヤ国立大学）	インドネシア
Saint-Petersburg State University of Economics（サンクトペテルブルグ国立経済大学）	ロシア
Karoli Gaspar University of the Reformed Church（カーロリ・ガシュパール大学）	ハンガリー
Modul University Vienna（モデュール大学）	オーストリア
Washington Center（ワシントンセンター）	アメリカ

※この他にも、オーストラリアのフリンダース大学やオーストラリアカトリック大学、カナダのビクトリア大学付属語学センターなどで短期海外研修を実施しています。

蘇州大学

ワシントンセンター

サンクトペテルブルグ国立経済大学

国内大学（機関名）	都道府県	留学区分
札幌国際大学 （図書館司書資格取得可）	北海道	長期
名桜大学（観光産業を学べる）	沖縄県	長期
神戸親和女子大学 （幼稚園教諭免許取得可）	兵庫県	長期

札幌国際大学

名桜大学（公立・沖縄県）

神戸親和女子大学

ペトラクリスチャン大学（インドネシア）

ジャカルタに次ぐインドネシア第二の都市スラバヤにあるペトラクリスチャン大学は、1961年に設立された私立大学です。キリスト教の価値観のもと、思いやり（=Caring）の精神とグローバルな視点を軸にハイレベルな教育を提供しています。インドネシア語・インドネシア文化（料理、アート、工芸）やツーリズムなどを英語で学ぶことができます。本学の学生も夏の短期プログラム「Asia Summer Program」に参加し、英語力を磨きました。

カーロリ・ガシュパール大学（ハンガリー）

ブダペストは「ドナウの真珠」と呼ばれる美しい街であり、留学生の受け入れに力を入れている大学が多く存在します。そのうちの一つであるカーロリ・ガシュパール大学は、16世紀から続く教育の伝統を受け継ぎ、1993年に設立されました。長期留学をする場合、Faculty of Humanities（人文学部）に所属し、外国語・教員育成・コミュニケーション学・心理学・歴史学などについて学ぶことができます。本学では2019年度よりカーロリ・ガシュパール大学からの交換留学生を受け入れています。

短期留学を終えて　学生の声

留学先　：オーストラリアカトリック大学（オーストラリア）　留学期間：5週間

発音の仕方や、対話の練習など幅広いことを勉強しました。少人数クラスで、一人一人に先生が熱心に声をかけてくれました。コミュニケーションを取れなかったらどうしようかと不安でしたが、間違っていてもまず伝えることが大切だと思えるようになりました。（教育学部教育学科初等教育専攻3年　乾 有紗）

クラスは少人数制で、発言の機会も多かったです。見ず知らずの人とも笑顔で会話できたことが、印象に残っています。初めは、電車の車内に電光掲示板がなく緊張したこともありましたが、この研修に参加して、自主性がつき成長できたと思います。
（国際教養学部国際教養学科3年　櫻井 毬萌）

2回目の参加で、自分の思ったことを単語ではなく、文章として伝え、会話することができました。道や電車を聞かれても、すぐに答えることができるようになりました。ホームステイ先ではさまざまな留学生が滞在していて、家でも毎日話すのが楽しかったです。
（教育学部教育学科初等教育専攻4年 藤原 実希）

自分の言葉で伝える力が成長しました。自分が持っている限られた語彙や表現を使って会話をすると、時間はかかってもしっかりと意思が伝わりました。「きちんと会話が出来た！」という達成感や、「この表現でも伝わるのか！」といった新たな発見もあり、現地での「会話」が本当に楽しかったです。
（教育学部教育学科中等教育専攻（国語）3年　池田 航太郎）

学納金等

項目	前期分（入学手続時納入）	後期分（10月1日までに納入）	年間合計
入学金	250,000円	–	250,000円
授業料	450,000円	450,000円	900,000円
施設設備資金	40,000円	40,000円	80,000円
合計	740,000円	490,000円	1,230,000円
後援会費（年額）	20,000円	–	20,000円
学生会費（年額）※	7,000円	–	7,000円

※学生会費は代理徴収するものです。　※上記納入金には、教科書代は含みません。

●初年度学納金123万円［入学金25万円、授業料・施設設備費（年）98万円］　● 2年目以降　98万円

学部・学科・専攻・募集人員

学　部	学　科	専　攻	募集人員
教育学部	教育学科	初等教育専攻	48
		中等教育専攻	24
国際教養学部	国際教養学科	—	78

特待制度

制度概要

開智国際大学では、学業並びに人間力の優秀な学生に入学してもらい、大学卒業後に傑出した教育者や企業人、行政マンとして国際社会に貢献できる人材に育ってほしいと願っています。そこで本学では、従来の大学受験では例を見ない特待制度を実施します。特待入試は、どなたでも受験可能です。制度の詳細は学生募集要項をご覧になるか、アドミッションセンターまでお問い合せください。

初年度納入金	入学金：25万円	学納金：98万円（施設設備資金8万円+授業料90万円）

区分	入学金	1年	2年	3年	4年	納入計
S 1	250,000	—	—	—	—	25万円（入学金）
S 2	250,000	250,000	400,000	400,000	400,000	170万円
S 3	250,000	350,000	500,000	500,000	500,000	210万円
S 4	250,000	550,000	700,000	700,000	700,000	290万円
A 1	250,000	730,000	980,000	980,000	980,000	392万円
A 2	250,000	830,000	980,000	980,000	980,000	402万円
通 常	250,000	980,000	980,000	980,000	980,000	417万円

多様な入試制度　※詳しくは「学生募集要項をご確認ください」

学校推薦型選抜

▸ 指定校推薦入試

本学が指定する高等学校から推薦された方を対象とした入試です。募集要項は指定する高等学校へ発送します。詳細は、高等学校の進路指導、担任の先生にご確認いただくか、本学までお問い合わせください。

総合型選抜

本学の建学の精神や基本理念及びアドミッションポリシーを理解したうえで、共感する者を、多面的・総合的に評価することによって、個性豊かな人材の育成を目指す入試です。

- **プレゼンテーション入試** …… 本学が第一志望の方
- **小論文入試** …… 合格発表から手続き締切までの期間が長い
- **英語外部試験入試** …… 来校しての試験がない
- **特待生選考入試** …… 4人に1人が特待合格

一般入試

▸ スカラシップ入試

特待生選考のための入試です。各入試と同時出願ができ、一般合格の判定もします。入学手続完了者も、入学の権利を保持したまま挑戦することができます。

▸ 大学入試共通テスト利用入試

大学入試センター試験を利用した入試には、特待選考と一般選考があります。特待選考は英語（リスニング含む）・国語および数学・社会・理科各教科から得点が高い1科目選択で得点に応じた特待合格となります。一般選考は上記3科目または英語・国語の2科目または英語1科目で選考します。詳細は、募集要項を参照してください。

▸ 一般入試

英語と国語で選考します。

Message

学長メッセージ

学 長
北垣 日出子

ダイバーシティを標榜する本学には、20ヶ国からの学生と教職員が集い、「異文化に学び、異文化を受容」する土壌が育っています。様々な言語が飛び交う、まさに「国際」大学です。

「初等教育専攻」と「中等教育専攻」の二つの専攻をもつ教育学部教育学科では、学生自身が探究型の学びを4年間体験することによって、「自ら解答を導き出す」探究型教育の指導ができる教員を養成します。これは開智学園が長年にわたって築き上げてきた教育法であり、併設校でのインターンシップを通して実践力を磨き、自信をもって教壇に立てる心構えと指導力を養います。開智学園が総力を結集した学部です。

一方、国際教養学部国際教養学科では、英語の修得はもちろんのこと、混とんとする世界を、多様な価値観が交錯する21世紀を生き抜く知識と力を養います。国際教養学部のカリキュラムは、学問領域を越え、横断的な知識と多角的な視点が持てるように構成され、柔軟な考え方と幅広い視野を育む学際的な学びが実現します。新任の先生方を迎えた国際教養学部は、新たな領域に科目を設け、より魅力的なカリキュラムが展開されます。探究型の授業を通して、コミュニケーション力、協働力、共創力そして発信力が身につきます。まさしく21世紀に必要とされる能力です。これは、卒業後もさまざまな領域の、さまざまな課題に果敢に挑戦する底力になるはずです。

本学では、両学部とも、これらの学修を少人数で行っています。少人数制の大学だからこそ実現できる「学生本位の教育」は、学生生活の多くの場面に「対話」を創り出し、価値観が多様化する社会を生き抜くうえでの必要不可欠な能力を養う場となっています。大学4年間は、社会に出るための最終的な仕上げの期間でもあります。自分自身を徹底的に掘り下げ、磨き上げる場として、新たな気持で本学での学びに挑戦してください。

「開智国際大学での4年間が今の私の原点です」と胸を張って言ってもらえるような、皆さんのキャリアの礎となる4年間をお約束します。

客員教授メッセージ

大村 泰三

学校法人 開智学園理事
元三菱マテリアル取締役を経て、現在同社社友

私と兄（2015年度ノーベル生理学・医学賞を受賞した開智学園名誉学園長の大村智）の座右の銘は、“選択と集中”です。これは、よく調べて、その上で「これだ！」と思うものを決めたら、そこにしっかりと集中して物事を行うということです。よく調べるという点では、世界を知るということも貴重です。これは、つまり開智国際大学の名前にもある、「『国際』を知る」ということです。私にとっては、マサチューセッツ工科大学の研究室に在籍し、世界レベルの研究を見聞するチャンスを得たことがこれに当たります。学生の皆さんにも、さまざまな事をよく調べた上で、「選択し、集中する」。このことを、人生全般において実践していただきたいと思います。

坪谷 ニュウエル 郁子

国際パカロレア機構アジア・パシフィック地区委員
東京インターナショナルスクール代表

教育は今、「教える」から「学ぶ」に大きくパラダイムシフトし、教員は、学びをデザインしファシリテートする役割を担います。重要なのは、安心と信頼が構築された学習集団の環境を教員が作り出すことです。教育は生徒達を変える力があり、未来を、世界を変える力があります。新設された教育学部に大きな期待を寄せております。

大塚 孝夫

国連工業開発機関 上級顧問
東京海上日動 顧問アドバイザー

国際社会は今まさに激動の時代にあります。過去30年余、国連という国際社会が凝縮された場において仕事をしてきて、痛感されたのは日本の大学教育の場に於いては、世界の動きに対応できうる真に幅広い器を備えた人材の育成が遅れがちであるという事実です。開智の新しい教育はその欠点を補い、様々な視点から世界を掘り起こし冷静に見つめ、かつ国際社会の全体像を理解する事により、常に柔軟に対応できる能力を身につけさせてくれると思います。